

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 月 日

授業対象学科：航空工学部整備工学専攻

授業科目名：航空従事者整備工学専攻

授業担当者（代表者）名：久保 敏宝

所属：航空工学部整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	疑問点を自ら解決する力を養えるよう専門書、及び教材について、その環境を整備する。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	更に解り易い資料の作成と、かみ砕いた講義内容となるよう努める。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	オンとオフのメリハリのある時間配分に努力する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	更に、熱意と誠意を尽くす。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	⑤と同様、効果的なプロジェクターによる授業を実施するために資料の充実を図る。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	実施した講義内容の理解度を個人ごとに確認しながら授業を進める。具体的には質問形式での授業も取り入れる。
伝える工夫 ⑬	3.0	4.0	⑤⑩同様。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	実習に重点を置き、全員参加型の授業とする。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	資格取得に向け、自己学習の必要性について指導する。同時に、考える力も養えるよう努力する。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	講義、実習、自己学習を通して達成感と結果が出せる内容となる為の環境づくりに努力する必要があると考える。

登録者数 = 4 名： 受験者数 A = 4 名： 単位取得者数 B = 4 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

二等航空運航整備士の実地試験に対し 100%合格率を目指す。

その目的達成のため、受験生の航空機に対するモチベーションを高めるのも一つの施策かと思われる。

今後、講義内容、実習内容を充実するとともに、「知ることの楽しさ」も取り込みながら授業改善を図りたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：航空工学

授業科目名：112 航空機修理基礎Ⅱ

授業担当者（代表者）名：原山和幸

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	5.0 引き続き、明確に指導・指示を行う。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	5.0 引き続き、理解度向上のために授業の進め方を更に工夫する。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	5.0 引き続き、学生主体に授業時間及び内容の構成を工夫する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	5.0 変わることなく熱意溢れる学生のための授業を行う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	5.0 引き続き、教材・資料についてはわかりやすいものを活用する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	5.0 引き続き、実物（実機）をタイミングよく使用して学生の理解度を確認しながら、その向上を図る。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	5.0 引き続き、講義での話し方、説明順番、声の抑揚等を工夫することでより良い伝え方の向上に努める。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	5.0 引き続き、一方向の授業だけではなく、学生自身に説明（発表）する機会を与える等の工夫を行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	5.0 引き続き、最重要であることの認識を持ち指導を行う。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	5.0 引き続き、更に教育者としての技能向上に努める。

登録者数 = 3名： 受験者数 A = 3名： 単位取得者数 B = 3名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

一方向の授業だけではなく、学生自身の自ら学習に向き合う態度・意識を身に付けさせる難しさを感じました。そのための授業のやり方、使用する教材・資料の準備、その効果的な活用について更に工夫・研究を継続、学生のために私自身の教育者としての技能レベル向上に努めたいと思います。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科：航空工学

授業科目名：113 航空機構成部品工学 I

授業担当者（代表者）名：原山和幸

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	5.0 引き続き、明確に指導・指示を行う。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	5.0 引き続き、理解度向上のために授業の進め方を更に工夫する。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	5.0 引き続き、学生主体に授業時間及び内容の構成を工夫する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	5.0 変わることなく熱意溢れる学生のための授業を行う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	5.0 引き続き、教材・資料についてはわかりやすいものを活用する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	5.0 引き続き、実物（実機）をタイミングよく使用して学生の理解度を確認しながら、その向上を図る。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	5.0 引き続き、講義での話し方、説明順番、声の抑揚等を工夫することでより良い伝え方の向上に努める。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	5.0 引き続き、一方向の授業だけではなく、学生自身に説明（発表）する機会を与える等の工夫を行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	5.0 引き続き、最重要であることの認識を持ち指導を行う。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	5.0 引き続き、更に教育者としての技能向上に努める。

登録者数 = 3 名： 受験者数 A = 3 名： 単位取得者数 B = 3 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

一方向の授業だけではなく、学生自身の自ら学習に向き合う態度・意識を身に付けさせる難しさを感じました。そのための授業のやり方、使用する教材・資料の準備、その効果的な活用について更に工夫・研究を継続、学生のために私自身の教育者としての技能レベル向上に努めたいと思います。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：航空工学

授業科目名：114 航空機構成部品工学Ⅲ

授業担当者（代表者）名：原山和幸

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	5.0 引き続き、明確に指導・指示を行う。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	5.0 引き続き、理解度向上のために授業の進め方を更に工夫する。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	5.0 引き続き、学生主体に授業時間及び内容の構成を工夫する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	5.0 変わることなく熱意溢れる学生のための授業を行う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	5.0 引き続き、教材・資料についてはわかりやすいものを活用する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	5.0 引き続き、実物（実機）をタイミングよく使用して学生の理解度を確認しながら、その向上を図る。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	5.0 引き続き、講義での話し方、説明順番、声の抑揚等を工夫することでより良い伝え方の向上に努める。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	5.0 引き続き、一方向の授業だけではなく、学生自身に説明（発表）する機会を与える等の工夫を行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	5.0 引き続き、最重要であることの認識を持ち指導を行う。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	5.0 引き続き、更に教育者としての技能向上に努める。

登録者数 = 4名： 受験者数 A = 4名： 単位取得者数 B = 4名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

一方向の授業だけではなく、学生自身の自ら学習に向き合う態度・意識を身に付けさせる難しさを感じました。そのための授業のやり方、使用する教材・資料の準備、その効果的な活用について更に工夫・研究を継続、学生のために私自身の教育者としての技能レベル向上に努めたいと思います。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年 2月 26日

授業対象学科： 全学科

授業科目名： 工業数学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.09	4.0	改善を継続する。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	改善を継続する。
授業時間 ⑦	4.42	4.0	改善を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.15	4.0	改善を継続する。
板書・教材 ⑩	4.52	4.0	改善を継続する。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	改善を継続する。
伝える工夫 ⑬	4.30	4.0	改善を継続する。
アクティブな機会 ⑭	3.79	4.0	ハイブリッド授業でできることを検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.18	4.0	改善を継続する。
全体評価 ⑯	4.09	4.0	改善を継続する。

登録者数=81名： 受験者数A=72名： 単位取得者数B=名：70 比率(B/A)=97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインと対面のハイブリッド授業だったので、理解度を確認するのが難しく、数名は再試験によって合格させた。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科： 航空・機械

授業科目名： 信頼性工学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	改善を継続する。
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	改善を継続する。
授業時間 ⑦	4.43	4.0	改善を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.57	4.0	改善を継続する。
板書・教材 ⑩	4.43	4.0	改善を継続する。
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	改善を継続する。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	改善を継続する。
アクティブな機会 ⑭	2.71	4.0	ハイブリッド授業でできることを検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.29	4.0	改善を継続する。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	改善を継続する。

登録者数=11名： 受験者数 A=11名： 単位取得者数 B=11名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインと対面のハイブリッド授業だったが、特に不満は聞かれなかった。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科： 航空・機械

授業科目名： 機械力学基礎

授業担当者（代表者）名： 古川 靖 所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.92	4.0	より具体的に指示する。
内容の理解度 ⑤	3.96	4.0	オンラインなので確認が難しいが、それほど悪くはないと考える。
授業時間 ⑦	4.42	4.0	改善を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.08	4.0	改善を継続する。
板書・教材 ⑩	4.46	4.0	改善を継続する。
理解への配慮 ⑪	4.13	4.0	改善を継続する。
伝える工夫 ⑬	4.29	4.0	改善を継続する。
アクティブな機会 ⑭	3.46	4.0	より具体的に指示する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	改善を継続する。
全体評価 ⑯	4.13	4.0	改善を継続する。

登録者数=53名： 受験者数 A=51名： 単位取得者数 B=51名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインと対面のハイブリッドで行ったが、特に不満は聞かれなかった。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年 2月 26日

授業対象学科： 航空

授業科目名： 流体力学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	4.00	4.0	改善を継続する。
⑤ 内容の理解度	4.00	4.0	改善を継続する。
⑦ 授業時間	2.00	4.0	切りのいいところで終わることもあったが、今後は何かしら補充するようにする。
⑧ 担当者の熱意	4.00	4.0	改善を継続する。
⑩ 板書・教材	4.00	4.0	改善を継続する。
⑪ 理解への配慮	4.00	4.0	改善を継続する。
⑬ 伝える工夫	4.00	4.0	改善を継続する。
⑭ アクティブな機会	4.00	4.0	改善を継続する。
⑮ 自ら学ぶ態度	4.00	4.0	改善を継続する。
⑯ 全体評価	4.00	4.0	改善を継続する。

登録者数=6名： 受験者数 A=6名： 単位取得者数 B=6名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今回、演習問題の解答説明を詳しく行ったので、試験結果はおおむねよくできていた。

今年のみ、航空のみが対象で航空関係の内容に力を入れたが、例年は機械科との合同授業。

授業改善計画書（令和3年度後期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月25日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：材料力学基礎

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4. 1 7	4.0	航空整備士資格取得が本授業の一つの目標であるため、一方的な講義は抑え、アクティブ・ラーンとしてのチーム討論、個人学習によって正解を出させている。難問については、角度を変えた説明を加え理論や理由づけを重視した指導を行っている。
内容の理解度 ⑤	3. 8 3	4.0	航空従事者学科試験の過去問の解答を暗記するだけの者と教材を深く読み込んで、解答の背景の理論を追求する者との両極の姿勢が混在し、姿勢の違いがそのまま学習の成果・理解度に反映されている事は当然である。
授業時間⑦	4. 5 0	4.0	現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4. 4 0	4.0	一定の評価は得られている。自己管理しながら現在の状況を維持したいと考える。
板書・教材⑩	4. 5 0	4.0	現行の方法を継続する。
理解への配慮 ⑪	4. 2 7	4.0	目標に向けて、一定の時間内に所定レベルに到達させる必要があり、個々人への配慮に限界はあるが努力を継続したい。
伝える工夫⑬	4. 3 7	4.0	一定の評価は得られていると考える。
アクティブな機会 ⑭	4. 1 0	4.0	学科試験受験が迫った試験対策フェーズでは、難問への追加解説や軌道修正等教官主導の場面が増し評点は下がっている。
自ら学ぶ態度 ⑮	4. 1 7	4.0	受験対策をPC、チーム・ワーク、独学等さまざまなスタイルで行っているが、国家資格取得に対する個々人の認識が甘い。
全体評価⑯	4. 1 0	4.0	一定の評価は得られていると考える。
登録者数＝4名： 受験者数A＝3名： 単位取得者数B＝3名： 比率（B/A）＝100%			
総括（自由記述に対する対応含む）： 最近、授業に対する意欲や意識が低く自己の目標自体が不明確な学生が増加傾向にあると感じているが、このような状況打開のために効果的な授業をどのように進めてゆくのか、教官側のさらなる工夫や発想の転換が強く求められていると感じている。			

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：宇宙科学概論

授業担当者（代表者）名：高口 裕芝

所属：航空工学部航空工学科（非常勤）

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	授業後の復習課題及び先々の授業内容に結びつく演習を授業時間に組み入れたことが予習も兼ねることになり効果的だった。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	時々経過時間をチェックしながら授業を進めた。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	視覚教材の準備、情報収集を授業に反映できたのが効果的だったと思う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	視覚教材の準備、情報収集を授業に反映できたのが効果的だったと思う。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	演習を授業時間に組み入れたことが効果的だった。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	先々の授業内容に結びつく演習を授業時間に組み入れたことが予習も兼ねることになり効果的だった。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	より視覚に訴えた教材作りが良い結果につながったと思う。

登録者数=3名：受験者数 A=2 名：単位取得者数 B=2 名：比率 (B/A) =67 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンライン授業という事で、特に視覚に訴える教材を多用し、まずは感覚的（直観的）な理解が得られるように準備した。

また、復習課題を課し、出来るだけ期間を置かずに復習が可能な環境を設定し、復習課題を採点后はコメントを付けて毎回返却したことも学生の理解の一助になったと思う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：電気推進

授業担当者（代表者）名：高口 裕芝 所属：航空工学部航空工学科（非常勤）

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.33	4.0	授業後の復習課題及び先々の授業内容に結びつく演習を授業時間に組み入れたことが予習も兼ねることになり効果的だった。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	時々経過時間をチェックしながら授業を進めた。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	視覚教材の準備、情報収集を授業に反映できたのが評価されたのだと思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	視覚教材の準備、情報収集を授業に反映できたのが効果的だったと思う。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	できるだけ、視覚教材を多用し、感覚的（直観的）に理解が得られるようにしたことが効果的だった。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	オンライン授業という事もあり、学生通しで連携を取り、チームとしての活動が難しかった。今後もう一工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	先々の授業内容に結びつく演習を授業時間に組み入れたことが予習も兼ねることになり効果的だった。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	より視覚に訴えた教材作りが良い結果につながったと思う。

登録者数=5名：受験者数 A=5名：単位取得者数 B=5名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンライン授業という事で、特に視覚に訴える教材を多用し、まずは感覚的（直観的）な理解が得られるように準備した。

また、復習課題を課し、出来るだけ期間を置かずに復習が可能な環境を設定し、復習課題を採点后はコメントを付けて毎回返却したことも学生の理解の一助になったと思う。

ただし、アクティブな機会を十分に与えられなかったことが今後の反省として残る。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 3 月 28 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： ジェットエンジン

授業担当者（代表者）名： 山本 淳二

所属： 航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。

登録者数=9 名： 受験者数 A=9 名： 単位取得者数 B=9 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今期は、前後の授業の兼ね合いから、全回を ZOOM での授業とし、途中教員への公開授業も行った。公開授業では、概ね肯定的なコメントをいただいたが、授業内容が難しすぎるのではとご意見もいただいた。本アンケート結果では授業もほぼ理解してもらっているようには見えるが、これらのご意見も考慮し、授業内容も極力シンプルにめりはりをつけ、よりわかりやすい授業とするように改善したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月28日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空機構造力学

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	課題等での出来具合を良く見て、学生がわかりにくいと思われる部分を良く聞き、追加説明するなどこころがける。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
アクティブな機会 ⑭	3.5	4.0	課題についても、わかりにくいところなど、問いかけ、質問を増やし学生がしゃべる場面を増やすようこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。

登録者数=12 名： 受験者数 A=12 名： 単位取得者数 B=12 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

説明がメインの授業はオンライン、課題を実施する授業は対面を基本としたが、事情でオンラインのみでしか受講できない学生がおり、全回ハイブリッドで実施したところ、後半はオンラインで受講する学生が増えたように思う。オンラインは学生にとっても参加しやすいメリットもあるが、やはり課題解法説明等は対面で実施した方が理解できているかいないかがわかりやすいので対面の方が好ましいと思う。今後も、ケース・バイ・ケースでオンライン、対面を切り分けての対応が良いように思った。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年3月28日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 熱力学

授業担当者（代表者）名： 山本 淳二

所属： 航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.76	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.76	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.76	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。
全体評価 ⑯	4.83	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つよう引き続きこころがける。

登録者数=6名： 受験者数 A=6名： 単位取得者数 B=6名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

昨年までの反省点も鑑み、授業中の学生への問いかけを意識的に増やした。問いかけの内容も、あまり難しい点ではなく、特に基本的なところを聞くようにこころがけた。その効果もあつてか、理解度、試験結果も、全般的に良好であったように思う。継続して、学生とのやりとりを増加するようにこころがけたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 24 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 救命生存法

授業担当者（代表者）名： 西川文敏

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.60	4.0	予習、復習の重要性をさらに強調する。
内容の理解度 ⑤	4.60	4.0	更に理解度を向上させるため、演習問題などを多く実施する。
授業時間 ⑦	4.80	4.0	現状を維持する。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	現状を維持する。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	現状を維持する。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	現状を維持する。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	現状を維持する。
アクティブな機会 ⑭	4.40	4.0	学生が発表する機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	さらに動機付けに力を入れる。
全体評価 ⑯	4.80	4.0	さらに向上に努める。

登録者数=13名： 受験者数 A=13名： 単位取得者数 B=13名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

より多くの事例を紹介するとともに、グループ討論等により考えさせる機会を増やしたい。また、オンライン授業で学生一人ひとりに目が行き届かなかったところがあったため、オンライン授業における学生の参加意識の向上、動機付けと演習問題の実施にさらに力を入れる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 24 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 就業力演習

授業担当者（代表者）名： 西川文敏

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	予習、復習の重要性をさらに強調する。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	更に理解度を向上させるため、演習問題などを多く実施する。
授業時間 ⑦	4.00	4.0	現状を維持する。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	現状を維持する。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	現状を維持する。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	現状を維持する。
伝える工夫 ⑬	3.00	4.0	より分かり易く伝わるよう工夫する。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学生が発表する機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	さらに動機付けに力を入れる。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	さらに向上に努める。

登録者数=13名： 受験者数 A=13名： 単位取得者数 B=13名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンライン授業で学生一人ひとりに目が行き届かなかったところがあった。オンライン授業における学生の参加意識の向上、動機付けと演習問題の実施にさらに力を入れる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： シミュレーター(PPL)

授業担当者（代表者）名： 島津 直史

所属： 第一工科大学 航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
内容の理解度 ⑤	4.8	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
授業時間 ⑦	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育の時間配分を継続
担当者の熱意 ⑧	4.8	4.0	自己評価：秀 引き続き熱意をもって教育にあたる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	自己評価：秀 使用教材の環境を維持する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	自己評価：秀 引き続き学生の理解度を把握しつつ授業を進める。
伝える工夫 ⑬	4.8	4.0	自己評価：秀 根拠を示して、より分かりやすい指導を継続する。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	自己評価：秀 引き続き学生が発言しやすい授業環境を維持する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.3	4.0	自己評価：優 引き続き熱意をもって教育にあたる。
全体評価 ⑯	4.8	4.0	自己評価：秀 引き続き学生の技量の進捗状況を把握しつつ授業を進める。

登録者数 = 16 名： 受験者数 A = 16 名： 単位取得者数 B = 16 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

シミュレーター(PPL)の授業は、ある程度の操縦技量を身につけて米国で実機訓練にスムーズに移行するためのものであり、その目的は達成できたものとする。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空気象 I

授業担当者（代表者）名：島津 直史

所属：第一工科大学 航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.8	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
内容の理解度 ⑤	4.6	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
授業時間 ⑦	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育の時間配分を継続
担当者の熱意 ⑧	4.8	4.0	自己評価：秀 引き続き熱意をもって教育にあたる。
板書・教材 ⑩	4.9	4.0	自己評価：秀 現教育のスタイルを継続
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	自己評価：秀 引き続き学生の理解度を把握しつつ授業を進める。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	自己評価：秀 引き続きより分かりやすい授業を心掛ける。
アクティブな機会 ⑭	4.4	4.0	自己評価：優 学生が発言しやすい授業環境を作っていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.1	4.0	自己評価：優 気象に興味がわく内容を増やし学習意欲の向上を図る。
全体評価 ⑯	4.8	4.0	自己評価：秀 引き続き学生の理解度を把握しつつ授業を進める。

登録者数 = 31 名：受験者数 A = 31 名：単位取得者数 B = 31 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

航空気象の授業を通じて、パイロットにとって如何に気象の知識が重要であるかを理解できたものとする。前期に比べると後期はさらに真剣度が増し学習に取り組んでいたように感じられた。航空気象 I で理解すべき内容は概ね習得できたものとする。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空気象Ⅱ

授業担当者（代表者）名：島津 直史

所属：第一工科大学 航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
授業時間 ⑦	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育の時間配分を継続
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	自己評価：優 引き続き熱意をもって教育にあたる。
板書・教材 ⑩	3.0	4.0	自己評価：良 使用教材の充実を図る。
理解への配慮 ⑪	3.0	4.0	自己評価：良 引き続き学生の理解度を把握しつつ授業を進める。
伝える工夫 ⑬	3.0	4.0	自己評価：良 より分かりやすい授業を心掛ける。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	自己評価：優 学生が発言しやすい授業環境を作っていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
全体評価 ⑯	4.0	4.0	自己評価：優 アンケート結果を踏まえ更なる授業内容の充実を図る。

登録者数 = 21 名：受験者数 A = 21 名：単位取得者数 B = 21 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

航空気象Ⅱの授業では、航空気象Ⅰの基礎をさらに一步進めた内容であり、高層大気の構造や大気循環について理解できたものとする。米国で実機によるフライトを経験してきたことで、より身近に感じたのか航空気象の授業に対する真剣さが伝わってきた。

航空気象Ⅱで理解すべき内容は概ね習得できたものとする。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年 2月 24日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 航空交通 I

授業担当者（代表者）名： 島藤 力

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	複雑な内容に関しては、自分の経験談や実例を取り上げ、学生の理解が深まるよう工夫していく。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数=21名： 受験者数 A=21名： 単位取得者数 B=21名： 比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

一方的に教える授業ではなく、学生の意見も聞きながら対話ができる授業にすることを心掛けている。コロナのため数回の授業がオンラインとなったが、対面授業と変わらないコンテンツを維持できるよう学生とも直接話し合い今後も内容などを吟味して行きたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 情報リテラシー

授業担当者（代表者）名： 野田 晋二

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	3.67	4.0	後方席の学生への注意がや不十分であったかもしれない。
⑤ 内容の理解度	4.50	4.0	目標達成
⑦ 授業時間	4.75	4.0	目標達成
⑧ 担当者の熱意	4.50	4.0	目標達成
⑩ 板書・教材	4.50	4.0	目標達成
⑪ 理解への配慮	4.25	4.0	目標達成
⑬ 伝える工夫	4.50	4.0	目標達成
⑭ アクティブな機会	4.08	4.0	目標達成
⑮ 自ら学ぶ態度	4.00	4.0	目標達成
⑯ 全体評価	4.42	4.0	目標達成

登録者数=37名： 受験者数 A=37名： 単位取得者数 B=37名： 比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

本科目は、今年度から担当開始。文科省の指針、他の先生に何を教えるべきかとの話し合いにより授業内容を構成し実施した。

もっと、調査・発表の時間を取れると良かったかと考える。

より学生達が、興味を持てる課題等を考える必要あり。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空力学

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	目標達成
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	残念な結果。来年度から教科書変更予定であり、その面も含めて改善予定。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	目標達成
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	目標達成
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	目標達成
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標達成
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	目標達成
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	発表等の機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	目標達成
全体評価 ⑯	5.0	4.0	目標達成

登録者数 = 8 名：受験者数 A = 8 名：単位取得者数 B = 8 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

来年度から教科書変更予定であり、それを踏まえて改善を行う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 月 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 伝熱工学

授業担当者（代表者）名： 野田晋二

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	目標達成
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	目標達成
授業時間 ⑦	5.0	4.0	目標達成
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	目標達成
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	目標達成
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	目標達成
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	目標達成
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	課題発表の機会を増やす
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	目標達成
全体評価 ⑯	5.0	4.0	目標達成

登録者数 = 4 名： 受験者数 A = 4 名： 単位取得者数 B = 4 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今年度から担当。

教科書を内容をまとめた資料（パワーポイント）を作成し、かつ計算課題を実施させたのが良かったのではないかと推測。更に、改善実施する予定。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：航空英語 I

授業担当者（代表者）名：齋藤 敦 所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	各学生に合わせて自宅で学習できる教材を紹介したが、授業時間内に実際に体験できる機会を設ける。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	各学生に合わせた教材を選択・紹介する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	各学生のレベルの確認したうえで、必要な教材が使用できるよう配慮する。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	一方的に教える時間が多かったことから、学生同士で技量を確認し合える方策を検討する。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	英検 / TOEIC / 航空無線 等の資格取得に挑戦する機会を薦める。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・各学生の基礎英語力を確認しつつ、航空業界で使われる英語用語を習得できるように教材を工夫する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：航空機システム

授業担当者（代表者）名：齋藤 敦

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業内容によっては時間を超過する場合があったので、事前準備の段階で内容を十分吟味する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	教科書に加えて、わかり易い図・写真等を用いるように工夫する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	講義で習った内容を、実物を見て理解を深めることが出来る様、整備実習棟の機材 / 教材を活用する。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	講義で習った内容を、学生同士が互いに教え合う時間を設け、各自の理解度を深める。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・講義室での座学のみではなく、整備実習棟の機材 / 教材を活用し、知識の定着に努める。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 25 日授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻授業科目名：ジェットエンジン授業担当者（代表者）名：齋藤 敦所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	ジェットエンジンの歴史等に関する副読本を紹介し、興味を持って自分の時間で学習できるようにする。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	理論だけではなく、実際の航空機に装着されているジェットエンジンを紹介する時間を設ける。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	3.0	4.0	教える内容が多すぎ一方的な授業になりがちだったので、学生の考えを引き出す工夫をする。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数 = 6 名： 受験者数 A = 6 名： 単位取得者数 B = 6 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・講義室での座学のみではなく、整備実習棟の機材 / 教材を活用し、知識の定着に努める。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：航空整備コミュニケーション

授業担当者（代表者）名：齋藤 敦

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.5	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	与えた課題が専門過ぎて理解し難い部分があったので、もう少し一般的なものにする。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	授業内容によっては若干の延長があったので、内容を吟味し最低限伝える量に抑える。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	課題指示が明確になるよう、また各自がまとめ易くなるような ”例” を数種類作成して提示する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	学生が各自調査し PowerPoint で発表させる形式を採ったが、今後は学生同士で協議する時間も設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	自宅での学習がし易いような課題（学生の興味を引くような課題）を設定し、学習を促す。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	

登録者数=10名：受験者数 A=10名：単位取得者数 B=10名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

・いくつかの課題のなかで学生各自が興味を持ったもの選ばせ、それぞれの発表を元に協議する時間を増やす。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：TE / TM

授業科目名：電子計測Ⅱ

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.11 (↑)※	4.0	評価 3 が 22.2% を占め若干不十分。授業前に Moodle 上で「学習ポイント」を、講義中に「学習纏め」の明示を徹底する。
内容の理解度 ⑤	3.44 (→)※	4.0	評価 3&4 の低評価が 44.4% を占める。Moodle を活用して理解困難箇所を抽出し、該当週及び次回授業にて補足説明を行う。
授業時間 ⑦	4.33 (→)※	4.0	概ね良好。適切に行っていると判断し現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.56 (↑)※	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	4.33 (↑)※	4.0	概ね良好。「学習ポイント」と「学習纏め」を必ず資料に入れる様にする。
理解への配慮 ⑪	3.89 (→)※	4.0	評価 3&4 の低評価が 44.4% を占める。「学習ポイント」確認の為の「小テスト」を実施し、都度フィードバックを実践する。
伝える工夫 ⑬	4.22 (↑)※	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	3.56 (↑)※	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00 (↑)※	4.0	「予習・復習」に重点を置いた評価基準を継続し、学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	4.00 (↑)※	4.0	項目⑤⑩向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 8 名： 受験者数 A = 8 名： 単位取得者数 B = 6 名： 比率 (B/A) = 75.0%

総括（自由記述に対する対応含む）：※上表矢印の意味：(→)：横ばい、(↑)：向上、(↓)：下降。

■成績内訳：合格(6)、再(2)、無資格(0)

■評価基準：出席(15%)、予習記録提出(15%)、課題提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：(1)「学習ポイント」を授業前に明示すると共に、「予習記録」提出を評価基準に盛り込む。

(2)上記項目(1)により、理解困難な「学習ポイント」を事前に抽出し、授業時に重点的に説明を実践する。

(3)授業中、「学習ポイント」毎の基礎的な「小テスト」により理解度の確認を行う。と共にフィードバックを実践する。

(4)授業後に、「学習ポイント」毎の理解度のアンケートを行い、次回授業でそのフィードバックを行う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：TE

授業科目名：応用電子回路

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00 (↑)※	4.0	評価 3 以下が 16.7%を占め若干不十分。授業前に Moodle 上で「学習ポイント」を、講義中「学習纏め」の明示を徹底する。
内容の理解度 ⑤	2.93 (→)※	4.0	評価 3 以下が 2/3 を占める。Moodle を活用して理解困難箇所を抽出し、該当週及び次回授業にて補足説明を行う。
授業時間 ⑦	4.83 (↑)※	4.0	概ね良好。適切に行っていると判断し現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.50 (↑)※	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.67 (↑)※	4.0	昨年度より向上するも未だ不足。「電子計測Ⅱ」と比較し資料化出来ていない所があり、更なる資料化を進める。
理解への配慮 ⑪	3.33 (→)※	4.0	評価 3 以下の低評価が 33.3%を占める。「学習ポイント」確認の為の「小テスト」を実施し、都度フィードバックを実践する。
伝える工夫 ⑬	3.67 (↑)※	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.67 (↑)※	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17 (↑)※	4.0	「予習・復習」に重点を置いた評価基準を継続し、学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.33 (→)※	4.0	項目⑤⑩向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 6 名： 単位取得者数 B = 5 名： 比率 (B/A) = 83.3%

総括（自由記述に対する対応含む）：※上表矢印の意味：(→)：横ばい、(↑)：向上、(↓)：下降。

■成績内訳：合格(5)、再(1)、無資格(1)

■評価基準：出席(15%)、予習記録提出(15%)、課題提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：

- (1)「学習ポイント」を授業前に明示すると共に、「予習記録」の提出を評価基準に盛り込む。
- (2)上記項目(1)により、理解困難な「学習ポイント」を事前に抽出し、授業時に重点的に説明を実践する。
- (3)授業中、「学習ポイント」毎の基礎的な「小テスト」により理解度の確認を行う。と共にフィードバックを実践する。(4)授業後に、「学習ポイント」毎の理解度のアンケートを行い、次回授業でそのフィードバックを行う。(5)資料化を進め教材の充実を図ると共に、資料の事前配布を行い予習に活用させる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科：TE

授業科目名：電子デバイス工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：永石 初弘 所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.93 (→)※	4.0	評価 3 以下が 28.5%を占め多少不十分。授業前に Moodle 上で「学習ポイント」を、講義中「学習纏め」の明示を徹底する。
内容の理解度 ⑤	3.79 (→)※	4.0	評価 3 以下が 28.5%を占める。Moodle を活用して理解困難箇所を抽出し、該当週及び次回授業にて補足説明を行う。
授業時間 ⑦	4.29 (→)※	4.0	概ね良好。適切に行っていると判断し現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.21 (→)※	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	4.86 (↑)※	4.0	概ね良好。「学習ポイント」と「学習纏め」を必ず資料に入れる様にする。
理解への配慮 ⑪	4.21 (→)※	4.0	評価 3 の低評価が 14.3%を占める。「学習ポイント」確認の為に「小テスト」を実施し、都度フィードバックを実践する。
伝える工夫 ⑬	4.43 (↑)※	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	3.50 (→)※	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.86 (↑)※	4.0	「予習・復習」の指示が出来ていない場合があり、これを徹底する事で学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	4.07 (→)※	4.0	項目⑤⑩向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=14名：受験者数 A=13名：単位取得者数 B=13名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：※上表矢印の意味：(→)：横ばい、(↑)：向上、(↓)：下降。

■成績内訳：合格(13)、再(0)、無資格(1)

■評価基準：出席(15%)、予習記録提出(15%)、課題提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：

- (1)「学習ポイント」を授業前に明示すると共に、「予習記録」の提出を評価基準に盛り込む。
- (2)上記項目(1)により、理解困難な「学習ポイント」を事前に抽出し、授業時に重点的に説明を実践する。
- (3)授業中、「学習ポイント」毎の基礎的な「小テスト」により理解度の確認を行う。と共にフィードバックを実践する。
- (4)授業後に、「学習ポイント」毎の理解度のアンケートを行い、次回授業でそのフィードバックを行う。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：TE / TA

授業科目名：電子回路I / 電子回路基礎

授業担当者（代表者）名：永石 初弘 所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.40 (↑)※	4.0	評価3が10.4%を占め若干不十分。授業前にMoodle上で「学習ポイント」を、講義中に「学習纏め」の明示を実践する。
内容の理解度 ⑤	3.03 (↓)※	4.0	評価3以下の低評価が7割を占める。Moodleを活用して理解困難箇所を抽出し、該当週及び次回授業にて補足説明を行う。
授業時間 ⑦	4.54 (→)※	4.0	概ね良好。適切に行っていると判断し現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.10 (→)※	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	4.09 (↑)※	4.0	昨年度より向上するも未だ若干不足。「学習ポイント」と「学習纏め」を必ず資料に入れる様にする。
理解への配慮 ⑪	3.78 (→)※	4.0	評価3以下の低評価が1/3を占める。「学習ポイント」確認の為の「小テスト」を実施し、都度フィードバックを実践する。
伝える工夫 ⑬	3.85 (→)※	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.34 (→)※	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.84 (↑)※	4.0	「予習・復習」の指示が出来ていない場合があり、これを徹底する事で学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.64 (→)※	4.0	項目⑤⑩向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 71名： 受験者数 A = 60名： 単位取得者数 B = 45名： 比率 (B/A) = 75.0%

総括（自由記述に対する対応含む）：※上表矢印の意味：(→)：横ばい、(↑)：向上、(↓)：下降。

■成績内訳：合格(45)、再(15)、無資格(11)

■評価基準：出席(15%)、予習記録提出(15%)、課題提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：(1)「学習ポイント」を授業前に明示すると共に、「予習記録」提出を評価基準に盛り込む。

(2)上記項目(1)により、理解困難な「学習ポイント」を事前に抽出し、授業時に重点的に説明を実践する。

(3)授業中、「学習ポイント」毎の基礎的な「小テスト」により理解度の確認を行う。と共にフィードバックを実践する。

(4)授業後に、「学習ポイント」毎の理解度のアンケートを行い、次回授業でそのフィードバックを行う。

(5)無資格者発生防止の観点から、連続欠席者に都度個別にアクセスし事情確認を行う。

(6)基礎科目の「電気回路」「数学」に関する理解不足が見られる事から、これらの補講を検討する。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：TE / TM

授業科目名：電子工学通論

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.17 (→)※	4.0	評価3以下が20%を占め多少不十分。授業前Moodle上で「学習ポイント」を、講義中に「学習纏め」の明示を徹底する。
内容の理解度 ⑤	3.16 (↓)※	4.0	評価3以下の低評価が6割を占める。Moodleを活用して理解困難箇所を抽出し、該当週及び次回授業にて補足説明を行う。
授業時間 ⑦	4.42 (→)※	4.0	概ね良好。適切に行っていると判断し現状維持。
担当者の熱意 ⑧	3.92 (→)※	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.97 (↑)※	4.0	昨年度より向上するも未だ不足。「電子計測Ⅱ」と比較し資料化出来ていない所があり、更なる資料化を進める。
理解への配慮 ⑪	3.54 (→)※	4.0	評価3以下の低評価が4割を占める。「学習ポイント」確認の為の「小テスト」を実施し、都度フィードバックを実践する。
伝える工夫 ⑬	3.70 (→)※	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.62 (↓)※	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.47 (↓)※	4.0	「予習・復習」の指示が出来ていない場合があり、これを徹底する事で学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.38 (↓)※	4.0	項目⑤⑩向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 76名： 受験者数 A = 71名： 単位取得者数 B = 63名： 比率 (B/A) = 88.7%

総括（自由記述に対する対応含む）：※上表矢印の意味：(→)：横ばい、(↑)：向上、(↓)：下降。

■成績内訳：合格(63)、再(8)、無資格(5)

■評価基準：出席(15%)、予習記録提出(15%)、課題提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：(1)「学習ポイント」を授業前に明示すると共に、「予習記録」提出を評価基準に盛り込む。

(2)上記項目(1)により、理解困難な「学習ポイント」を事前に抽出し、授業時に重点的に説明を実践する。

(3)授業中、「学習ポイント」毎の基礎的な「小テスト」により理解度の確認を行う。と共にフィードバックを実践する。

(4)授業後に、「学習ポイント」毎の理解度のアンケートを行い、次回授業でそのフィードバックを行う。

(5)資料化を進め教材の充実を図ると共に、資料の事前配布を行い予習に活用させる。

(6)無資格者発生防止の観点から、連続欠席者に都度個別にアクセスし事情確認を行う。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月21日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：コンピュータ工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.47	4.0	自主学习についての改善効果が出てきた。難易度の高い授業であるので興味を持てるように更に工夫したい。
内容の理解度 ⑤	4.11	4.0	難易度が高い授業であるが、評点が4.0を達成できた。
授業時間 ⑦	4.58	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.63	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.58	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであったが、たまに板書が分からなかった学生がいるので注意する。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	理解への配慮が無い、という学生が0であり、評価されていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.72	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.38	4.0	座学中心になりがちなので、アクティブラーニングについて改善を図る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	改善の効果があり、良い評価となっている。
全体評価 ⑯	4.31	4.0	満足度が「満足」「大変満足」が9割いるので、難易度が高い授業の割には評価されていると思う。

登録者数=78名：受験者数A=72名：単位取得者数B=69名：比率(B/A)=96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席点(15%)、課題(45%)、期末課題(40%)、で評価した。

学習目標の達成：合格者は96%。不合格者は課題を真面目に解いていない学生。

コンピュータの基礎的知識ではあるが、難易度が高く、できるだけ分かり易く、を心がけた成果が出てきていると考える。内容の理解度、アクティブな機会については評価が低いので、授業内容の改善を図る。

その他：自由記述について意見は無かった。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 21 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：デジタル回路Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.29	4.0	改善の効果が有り、目標を上回った。
内容の理解度 ⑤	3.90	4.0	殆どの学生が半分程度理解しているが、前回より評価が落ちている。全く理解できない学生への配慮を行う。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.45	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.24	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であった。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.38	4.0	授業では演習の時間も取り入れるなどして、アクティブラーニングを行い改善する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.10	4.0	座学のため一方的な授業に終始しており、改善を図る。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	ほぼ全員が、満足度が「満足」「大変満足」の評価だった。

登録者数 = 50 名： 受験者数 A = 50 名： 単位取得者数 B = 46 名： 比率 (B/A) = 92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席(15%)、授業の演習(45%)、期末の課題(40%)で評価した。

学習目標の達成：難易度の高い授業であるが、基本的な部分は学生は理解できていると思う。教科書と演習だけの授業であるので、更に色々な話題を取り込み、改善を図りたい。

その他：自由記述は無し。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月21日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：組込機器応用講座II

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.00	4.0	今年は考える時間をあまり設けなかったため、評価が低い来年度は、授業のスタイルを変更する。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	組込機器応用講座Iより難易度を上げているが、理解度の評価は改善している。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.83	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であった。
伝える工夫 ⑬	4.83	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	アクティブラーニングを行っているのだが、考える時間が少なかったせいだと思う。授業のスタイルを変更する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	積極的に学習する態度が取れるようになった学生が多数であり、評判の良い授業であった。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	全員が、満足度が「大変満足」の評価だった。

登録者数 = 7名：受験者数 A = 7名：単位取得者数 B = 7名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、レポートの内容+出席状況で評価した。

学習目標の達成：授業内容を改善した効果で、理解度は上がったものの、アクティブラーニングの評価は下がっている。来年度は、考える時間を増やす工夫をする。

その他：自由記述は無し。

授業改善計画書（令和3年度後期講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年2月21日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電子工学実験Ⅰ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.10	4.0	目標を上回っており、座学との関係は理解してもらっているようである。
内容の理解 ③	3.60	4.0	事前説明が少なく、学生に予習させる形態のため、内容を理解できていない学生が多い。授業中の説明を増やすなど工夫する
知識の増加 ⑤	3.97	4.0	ある程度以上知識が増えた、という学生が殆どであるが、1名全く増えていない学生がおり、配慮が必要。
板書・教材 ⑥	4.40	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
伝える工夫 ⑦	3.93	4.0	全く工夫していない、という学生が2名おり、一方的な説明にならないよう工夫する。
全体評価 ⑧	3.70	4.0	非常に不満、という学生が1名。実験の有効性を理解してもらえていないようなので、オリエンテーション等で指導する。

登録者数=56名：受験者数A=39名：単位取得者数B=32名：比率(B/A)=82%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、レポートの評価点数の平均+出席点、で評価した。

学習目標の達成：合格者は82%で、不合格者はレポート未提出者。不合格者については、今後、レポートが全数完了した時点で合格とする。

ほとんどの項目で目標値を下回っており、改善が必要。今年度はコロナで、授業スケジュールに余裕がなく、学生の評価も低かったものとする。

今後は、学生の理解度向上に取り組むと共に、レポートを早期に提出するような学生サポートを行っていく。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：応用物理

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.67	4.0	自主学习のポイントに関する指導・指示については、評価を得ていると思う。
内容の理解度 ⑤	3.17	4.0	内容の理解度についても、完璧に理解しているという学生が 0 名だったので、より理解してもらえよう丁寧な説明に心がける。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	熱意についても、評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	板書についても、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.83	4.0	伝える工夫についても、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	アクティブな機会については、今後、学生の発表の場などを増やしていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	全体評価についても、概ね評価を得ていると思う。

登録者数 = 27 名：受験者数 A = 27 名：単位取得者数 B = 21 名：比率 (B/A) = 78 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：応用物理自体の内容が難しいため、理解度が低い状態になるのは仕方ないが、より丁寧な説明を行い、理解してもらえようように改善していきたい。また、自主学习指導、アクティブな機会についての評価も低かったため、今後、発表の機会を作るなど改善していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：TA, TE, TM

授業科目名：電磁気学Ⅱ, 電磁気学

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	自主学习のポイントに関する指導・指示については、概ね評価を得ていると思う。
内容の理解度 ⑤	4.27	4.0	内容の理解度についても、概ね評価を得ていると思う。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.47	4.0	熱意については、概ね評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.53	4.0	板書については、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.53	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	伝える工夫についても、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.20	4.0	アクティブな機会については、今後、学生の発表の場などを増やしていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.13	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.13	4.0	全体評価についても、概ね評価を得ていると思う。

登録者数 = 70 名：受験者数 A = 69 名：単位取得者数 B = 51 名：比率 (B/A) = 74 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：自主学习指導、アクティブな機会についての評価が低かったため、今後、発表の機会を作るなど改善していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：JAVA プログラミング II

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.86	4.0	自主学习のポイントに関する指導・指示が全くされなかったという学生が 1 名いたので、今後、全員に伝わるよう指導・指示をしていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	内容の理解度については、概ね評価を得ていると思う。
授業時間 ⑦	4.57	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	熱意についても、評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	板書についても、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.71	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.43	4.0	伝える工夫については、概ね評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.86	4.0	アクティブな機会については、今後、学生の発表の場などを増やしていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.57	4.0	自ら学ぶ態度については、評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.57	4.0	全体評価についても、評価を得ていると思う。

登録者数 = 60 名： 受験者数 A = 55 名： 単位取得者数 B = 53 名： 比率 (B/A) = 96 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：自主学习指導、アクティブな機会についての評価が少し低かったため、今後、改善していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：JAVA プログラミング演習Ⅱ

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.80	4.0	自主学习のポイントに関する指導・指示が全くされなかったという学生が 1 名いたので、今後、全員に伝わるよう指導・指示をしていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	内容の理解度については、概ね評価を得ていると思う。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	熱意についても、評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書についても、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.80	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	伝える工夫についても、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	アクティブな機会については、今後、学生の発表の場などを増やしていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	自ら学ぶ態度については、評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.80	4.0	全体評価についても、評価を得ていると思う。

登録者数 = 37 名：受験者数 A = 37 名：単位取得者数 B = 34 名：比率 (B/A) = 92 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：課題（100%）

学習目標の達成：自主学习指導、アクティブな機会についての評価が低かったため、今後、発表の場を増やすなど改善していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：プログラミング入門Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

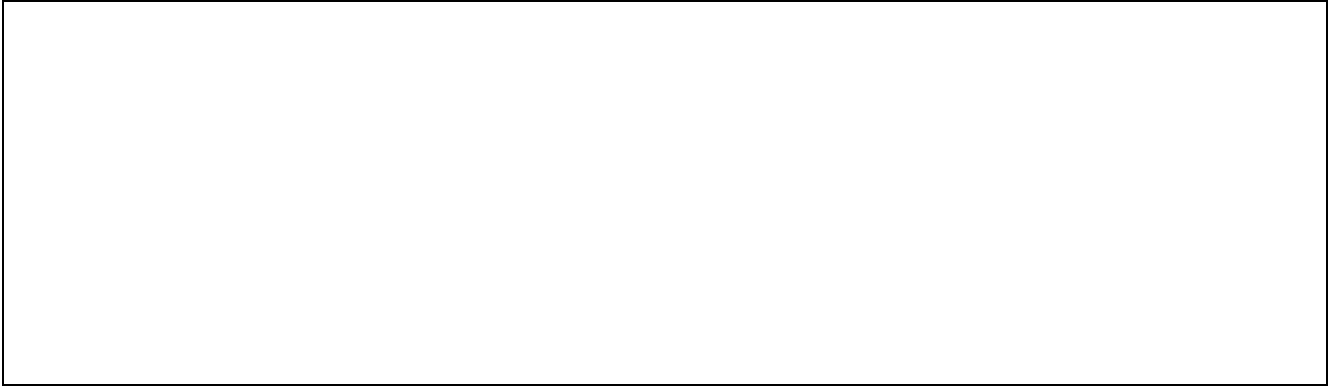
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.35	4.0	やや不十分であった。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	3.69	4.0	やや不十分であった。学生の理解度を確認する小テストの数を増やす。
授業時間 ⑦	4.23	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.35	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.62	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.15	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.35	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.35	4.0	やや不十分であった。最終課題発表以外にも、学生に発表させる機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	できていた。オリジナルのアプリ開発について自習させた。
全体評価 ⑯	4.46	4.0	できていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=44名： 受験者数 A=43名： 単位取得者数 B=40名： 比率 (B/A) =91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

Python を使ってプログラミングの基本的な考え方、CUI、GUI ゲームアプリ開発について授業を行った。オリジナルのアプリ開発を行わせる課題を最終課題として行わせ、そのアプリについてのプレゼンを他の学生の前で各自発表させた。大学初年度のプログラミングの授業であるため、今後の授業におけるプログラミング学習の意欲が高まるように、また自己学習能力を向上させるように、自ら手を動かして考える時間を多くとった。また、プログラミングの細かい文法よりも、具体的に動くアプリの開発スキルの向上を主な目的とした。プログラミングの知識、応用スキル、学生の自信の 3 つをいかにバランスを保って高められるかが今後の課題である。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：データベースⅡ

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.18	4.0	できていた。引き続き、自主学习能力を向上できるように支援する。
内容の理解度 ⑤	3.91	4.0	やや不足していた。システム開発の課題を増やし、それに対するフィードバックを行うようにする。
授業時間 ⑦	4.55	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.36	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.91	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.45	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.91	4.0	やや不十分であった。課題でデータベースを使ったシステム開発を行わせ、それについて発表させる機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.45	4.0	できていた。データベースを使ったアプリ開発について自習させた。
全体評価 ⑯	4.27	4.0	できていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=25名： 受験者数 A=25名： 単位取得者数 B=15名： 比率 (B/A) =60%

総括（自由記述に対する対応含む）：

データベースⅠで学んだプログラミングを活用し、Glideを使ったアプリ開発を題材にした。データベースⅠは、SQLの文法、データベースの理論が中心であったため、実際に役に立つレベルまでのシステム開発をすることが難しかったため、データベースⅡではより易しいツールで実践的なシステム開発を行えるようにした。引き続き、理論の知識、応用スキル、学生の自信の3つを伸ばせるように授業を継続的に改善する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：基本情報処理講座 I

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.47	4.0	やや不足していた。自主学习の達成度を確認し、それに応じて学習指導内容を変えるようにする。
内容の理解度 ⑤	3.65	4.0	やや不十分であった。教科書の内容に対する補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
授業時間 ⑦	4.28	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.14	4.0	できていた。授業時間外での、授業についてのサポートを希望者に行う。
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	3.67	4.0	やや不十分であった。定期的に小テストを実施し、その結果を確認して、授業内容の説明、時間の割き方を変えるようにする。
伝える工夫 ⑬	4.28	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	2.28	4.0	不十分であった。資格取得に関するメリット、デメリットに関する議論の機会を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.74	4.0	やや不十分であった。資格試験の受験者数が増えるように促す。
全体評価 ⑯	4.14	4.0	概ねできていた。資格試験の出題範囲のうち、重要度をより細かく分析し、それに応じて説明時間を変更する。

登録者数=63名： 受験者数 A=63名： 単位取得者数 B=59名： 比率 (B/A) = 94 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

経済産業省所管の情報処理に関する国家試験である、基本情報技術者試験の合格、そのための午前試験免除の獲得を目指した授業であった。資格取得を目指す授業であるため、受験者数/受講者数が 100%になるように促したい。また、合格率は 50%を目指したい(全国平均は 25%)。

学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、資格取得のメリット、デメリットを議論する機会を設けることで、資格取得のモチベーションの向上、意義の理解を行えるように改善する。また、試験の出題範囲の重要な箇所、学習者の理解が弱いところを見極め、説明、方法を改善する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：経営情報システムⅡ

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

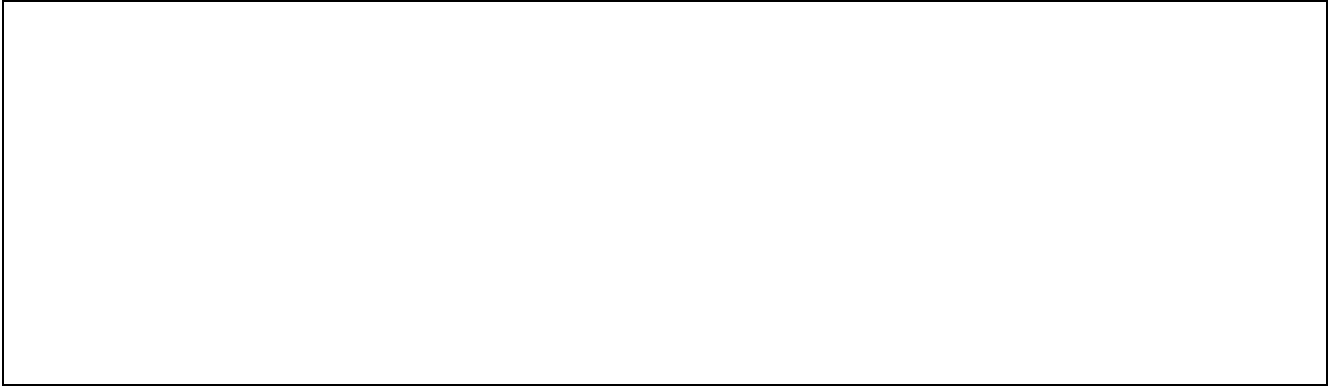
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	できていた。引き続きレポート課題を多く設定し、それについて発表させる機会を設ける。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	やや不十分であった。学生による発表等、学生がアウトプットする機会を増やす。
授業時間 ⑦	4.3	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.17	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	やや不足していた。レポート課題の内容を、学習者にプレゼンさせるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	できていた。Web のニュースサイト等で授業内容に関する情報収集をする習慣をつけさせ、プレゼンさせるようにする。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	概ねできていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=13名：受験者数 A=11名：単位取得者数 B=11名：比率 (B/A) =85%

総括（自由記述に対する対応含む）：

企業の経営活動を支援する情報システムの授業であったため、企業での実際の経験、社会のタイムリーな話題をできるだけ伝えるようにした。学生の意見や、他の学生と議論させる機会を増やすため、学生サポートセンターが主催するビジネスプランコンテストに向けたビジネスプラン作成の課題を設定し、応募を行った。学生同士で議論する時間が少なかったため、小グループで授業の内容について議論する時間、個々の学生と対話する時間を増やすようにする。各種ビジネスプランコンテストや RESAS 地方創生政策アイデアコンテスト等への参加は、学生自らが学ぶ時間、態度の改善につながると考えられるため、引き続き参加を検討する。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 27 日

授業対象学科： 航空工学部:航空工学科、工学部:機械システム工学科・建築デザイン学科

授業科目名： プログラミング入門Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 松田 翔太 所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.79	4.0	アンケート回答から、自主学習指導に関しては目標値を下回っている。学生に対して、大学以外でプログラミングをできるようにするにはどうすればいいか等の指導がなかったのが原因と考えられる。来年度は、google Colaboratory などで復習もしやすい状態を作って講義を進めていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	アンケート回答から、内容の理解度に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	アンケート回答から、授業時間に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	アンケート回答から、担当教員の熱意に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
板書・教材 ⑩	4.93	4.0	アンケート回答から、板書・教材に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.43	4.0	アンケート回答から、理解への配慮に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	アンケート回答から、伝える工夫に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	3.57	4.0	アンケート回答から、自主学習指導に関しては目標値を下回っている。原因はプログラムの解説や、プログラミングという個人単位で行う作業であるからと考えられる。今後は課題を出し、モブプログラミングなどの手法を取り入れながら、コミュニケーションを取れるような講義としたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.14	4.0	アンケート回答から、自ら学ぶ態度に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	アンケート回答から、全体評価に関しては目標値を超えている。今後も、継続していきたい。

登録者数=29名： 受験者数 A=27名： 単位取得者数 B=25名： 比率 (B/A) =92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

プログラミングは 1 人で行う作業がどうしても多くなるため、理解度の偏りやアクティブな機会に該当しにくい面がある。来年度はこれらに対応していきたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月27日

授業対象学科：工学部 情報電子システム工学科

授業科目名：C言語プログラミングⅡ

授業担当者（代表者）名：松田 翔太 所属：工学部 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.17	4.0	アンケート回答から、自主学习指導に関しては適切であると判断できる。今後も、継続していきたい。
内容の理解度 ⑤	4.03	4.0	内容の理解については、目標値に達しているが、テストの点数から何人か理解できていないを考えられる。今後、巡回等を行い学生の理解度を図りながら講義を行う。
授業時間 ⑦	4.52	4.0	アンケート回答から、授業時間に関しては適切であると判断できる。今後も、継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.41	4.0	アンケート回答から、熱意はあると判断できる。今後も、継続していきたい。
板書・教材 ⑩	4.45	4.0	アンケート回答結果から、教材の使い方に関しては、目標値に達している。ppx や実際のコンパイルなどを示しているからと考えられる。まだ板書を活用しきれていないため、今後活用していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.41	4.0	アンケート回答結果から、理解度への配慮は、目標値に達している。今後も継続していきたい。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	アンケート回答結果から、伝える工夫は、目標値に達している。今後も継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	3.48	4.0	アンケート回答結果から、アクティブな機会は、目標値に達していない。今期は前期と違い、課題の提出を求めることがなかったためと考えられる。来年度は課題を作成し、アクティブな機会を設けたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.38	4.0	アンケート回答結果から、自ら学ぶ態度は、目標値に達している。今後も継続していきたい。
全体評価 ⑯	4.14	4.0	アンケート回答結果から、全体評価は、目標値に達している。今後も継続していきたい。

登録者数=58名： 受験者数A=50名： 単位取得者数B=48名： 比率(B/A)=96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

アンケート回答からアクティブな機会以外は目標値に達していることがわかる。今後も、現状の講義形態を維持しながら、課題となるアクティブな機会を組み込む講義を構築していきたい。

授業改善計画書（令和3年度前期講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年2月27日

授業対象学科：工学部情報電子システム工学科

授業科目名：C言語プログラミング演習Ⅱ

授業担当者（代表者）名：松田 翔太 所属：工学部情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.30	4.0	アンケート回答の結果から、座学との関係は目標値に達していることがわかる。今後も、継続していきたい。
内容の理解 ③	3.90	4.0	アンケート回答の結果から、内容の理解は目標値に達していないことがわかる。難しい課題を多めに出していたのが問題と思われる。今後は学生全体の理解度を加味して、課題を出していきたい。
知識の増加 ⑤	3.90	4.0	アンケート回答の結果から、知識の増加は目標値に達していないことがわかる。本講義は、C言語プログラミング入門Ⅱで学んだことをプログラムに落とし込むことを主としているため、新たに学ぶことがなかったと思われる。
板書・教材 ⑥	4.60	4.0	アンケート回答の結果から、板書・教材は目標値に達していることがわかる。今後も、継続していきたい。
伝える工夫 ⑦	4.50	4.0	アンケート回答の結果から、伝える工夫は目標値に達していることがわかる。今後も、継続していきたい。
全体評価 ⑧	4.10	4.0	アンケート回答の結果から、全体評価は目標値に達していることがわかる。今後も、継続していきたい。

登録者数=42名：受験者数A=42名：単位取得者数B=33名：比率(B/A)=75%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本講義は、「C言語プログラミングⅡ」の受講後の課題演習を目的とした講義である。そのため、「座学との関係」の評価が目標値に達していることは最低限の目的を達成したと考えられる。しかし、「内容の理解」と「知識の増加」に関しては目標値を下回っている。「内容の理解」に関しては課題難易度のミスがあると考えられる。「知識の増加」に関しては、座学で学んだところまでで課題を作成していることが原因と考えられる。

今後の対策については、課題の回答を詳しく行うこと、C言語プログラミングⅡで習った内容を深く理解するための内容を追加していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：TE1

授業科目名：情報リテラシー

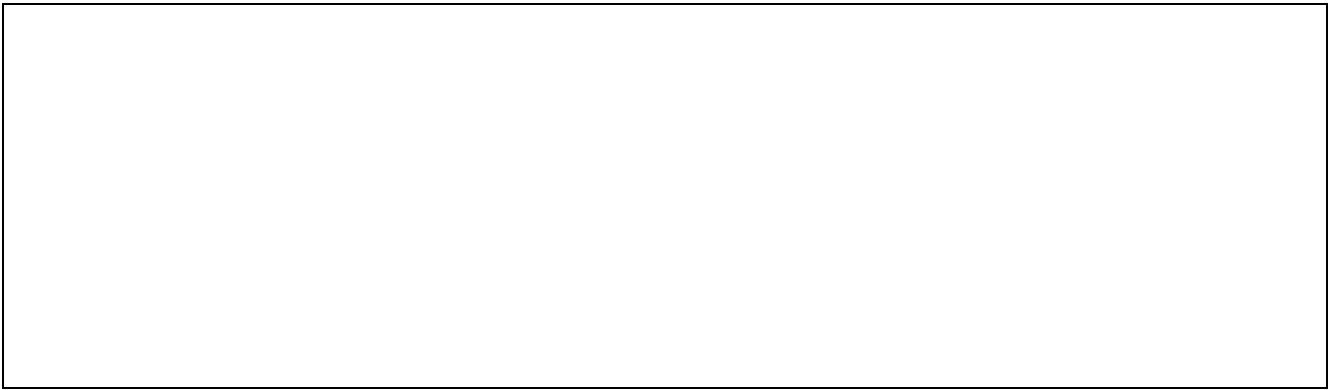
授業担当者（代表者）名：齊 培恒 所属：情報

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	2.83	4.0	難易度を更に下げ、コンピューター情報処理の応用例を挙げ、興味を持って貰います。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	
授業時間 ⑦	4.83	4.0	
担当者の熱意 ⑧	3.83	4.0	講義に集中できるように、睡眠を確保、調整必要。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	ネット上に工夫して、交流できるような時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.83	4.0	
全体評価 ⑯	4.67	4.0	

登録者数=46名：受験者数 A=45名：単位取得者数 B=44名：比率 (B/A) =97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

この授業は情報科学を中心に情報機器、ネットワーク、セキュリティなどの歴史、実態を紹介する授業なので、少し実システムの見学、操作（使用）、実物提示が必要で、今後取り込みたい。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：TE1

授業科目名：情報電子基礎数理 II

授業担当者（代表者）名：齊 培恒 所属：情報

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.75	4.0	難易度を更に下げ、基礎数学の応用例を挙げ、興味を持って貰います。
内容の理解度 ⑤	4.38	4.0	
授業時間 ⑦	4.50	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.63	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.63	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.88	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.75	4.0	ネット上に工夫して、交流できるような時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	
全体評価 ⑯	4.50	4.0	

登録者数=62名：受験者数 A=60名：単位取得者数 B=52名：比率 (B/A) =86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生のレベルは非常にバラツキが大きいと感じています。今後、過去 7 年間の経験を生かして、数学の重要性を認識してもらい、多くの学生の今後の専門科目に役に立つように、レベルアップさせます。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：TE3

授業科目名：ネットワーク工学 II

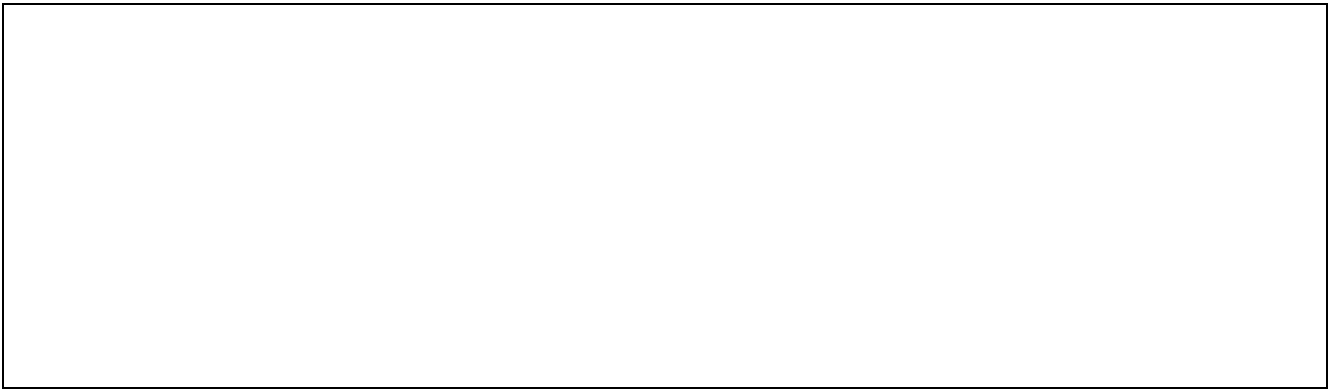
授業担当者（代表者）名：齊 培恒 所属：情報

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	
授業時間 ⑦	4.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	
全体評価 ⑯	5.00	4.0	

登録者数=60名：受験者数 A=60名：単位取得者数 B=53名：比率 (B/A) =88%

総括（自由記述に対する対応含む）：

情報通信工学基礎とモバイルネットワークを中心に講義する授業である。一部漫画形式、板書、プロジェクターを組み合わせることで理解度を上げる。抽象的な科目ですが、今後現行システム例を挙げ、理解度を高める。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：TE3

授業科目名：電波工学 II

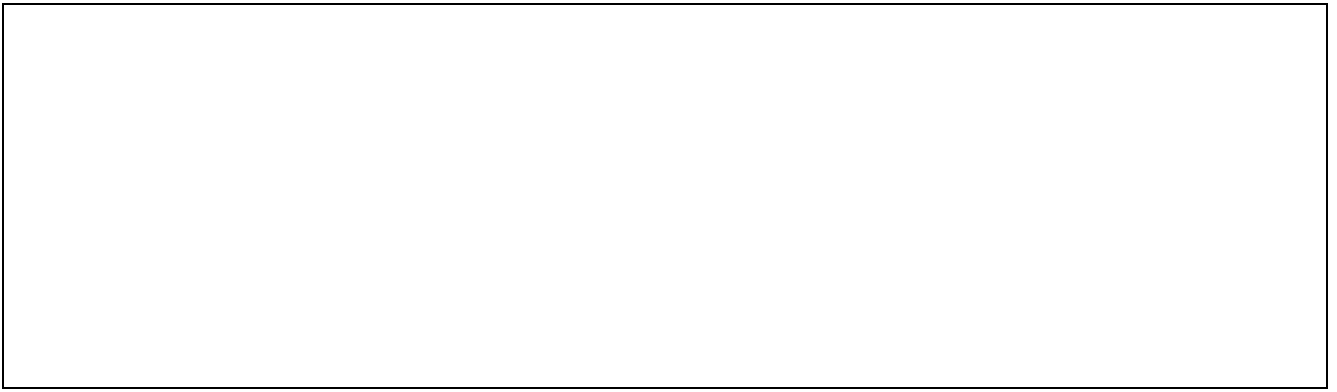
授業担当者（代表者）名：齊 培恒 所属：情報

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.67	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	
授業時間 ⑦	5.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	今後 Zoom を活用して遠隔授業にアクティブな環境を構築します。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	
全体評価 ⑯	4.67	4.0	

登録者数=34名：受験者数 A=34名：単位取得者数 B=33名：比率 (B/A) =97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

やる気を起こす方法を考え、一方的な教え込みを当たり前と思わないようにする。今後見えない電波の見える模型を作成して、少しでも学問に興味を持ってもらえるように努めます。来期は「情報通信ネットワーク I,II」の融合し、講義自体は終了になります。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：TE2

授業科目名：情報通信ネットワーク II

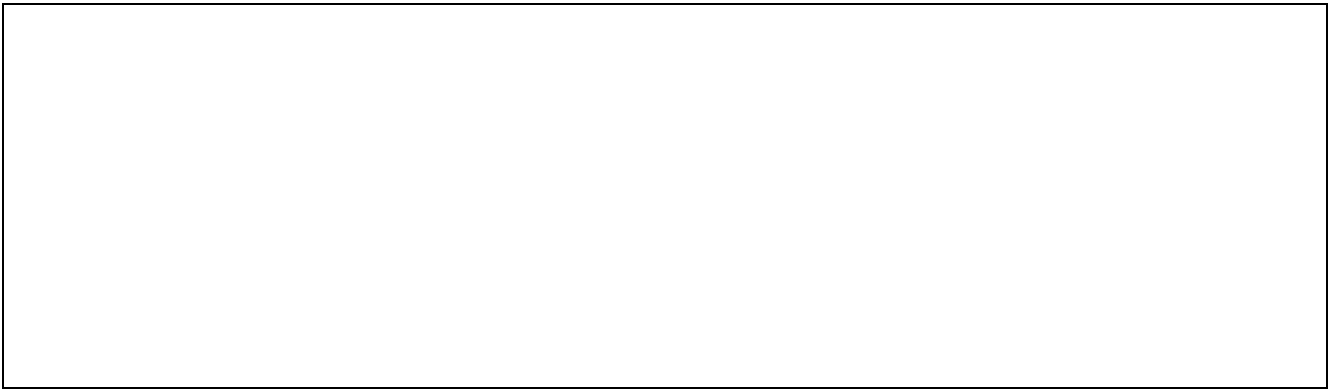
授業担当者（代表者）名：齊 培恒 所属：情報

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	1.33	4.0	難易度を更に下げ、情報通信ネットワークの応用例を挙げ、興味を持って貰います。
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	
授業時間 ⑦	4.33	4.0	
担当者の熱意 ⑧	3.00	4.0	講義に集中できるように、睡眠を確保、調整必要。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.00	4.0	漫画など分かりやすい内容に変更必要がある。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	
アクティブな機会 ⑭	1.00	4.0	ネット上に工夫して、交流できるような時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.33	4.0	単に単位だけを欲しい学生には向かない講義だったが、単位を取得しやすい講義内容に変更。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数=46名：受験者数 A=45名：単位取得者数 B=44名：比率 (B/A) =97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

情報通信工学基礎とモバイルネットワークを中心に講義する授業である。一部漫画形式、板書、プロジェクトを組み合わせることで理解度を上げる。抽象的な科目ですが、今後現行システム例を挙げ、理解度を高める。



授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：情報工学演習

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.76	4.0	予習・復習の課題を整えたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	共通教育で学ぶ数学の項目と数値計算手法との関連を機会がある毎に説明を行った。理解を得るよう工夫して説明したい。
授業時間 ⑦	4.40	4.0	時間内に終了するよう時間配分を留意した。
担当者の熱意 ⑧	4.28	4.0	資料の準備、課題の解説を丁寧に行った。
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	パワーポイントを活用したため、内容が伝わりやすかったと思われる。また、要点などスライド抜粋プリントを配布した。
理解への配慮 ⑪	4.28	4.0	数式による手法の挙動を図・グラフ等を用いて、理解しやすいように努めた。さらに理解のための工夫を行いたい。
伝える工夫 ⑬	4.68	4.0	パワーポイントを活用したため、内容が伝わりやすかったと思われる。また、スライド資料を Moodle 上で配布した。
アクティブな機会 ⑭	2.72	4.0	リモート授業の中で実施することが困難であった。リモート環境下での実施方法を研究したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.60	4.0	気象の数値予報や流体のシミュレーション、システム制御、CG など応用事例を示した。
全体評価 ⑯	4.32	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=15 名：受験者数 A=13 名：単位取得者数 B=11 名：比率 (B/A) =85 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・Excel 上でステップ毎に計算・繰り返しを行い、結果をグラフ化することで、数値計算アルゴリズムの動作を理解する演習である。数学的手法の定番アルゴリズムの理解を主目標とした一方、気象の数値予報や画像処理、システム制御など広範囲に応用事例を提示し、学生の興味を喚起するよう心掛けた。
- ・一方で、リモート授業形式の演習は細かい指導が十分できないため、今後の検討を要する。
- ・カリキュラム改定により来期から講義科目「数値計算」となる。この授業で得られた知見を活かして来期の講義の準備を行いたい。

自由記述における意見・コメント・・・なし

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電子材料Ⅱ

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.15	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.40	4.0	原子レベルの内容であったため具体的な理解が実感でき難いと思われたため、可能な限り図の提示を行った。
授業時間 ⑦	4.48	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.70	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前に Moodle 上でダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.27	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.58	4.0	数式に対して定性的な解説および図示を行うことで、理解を深めるよう心掛けた。
アクティブな機会 ⑭	2.82	4.0	リモート授業の中で実施することが困難であった。リモート環境下での実施方法を研究したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.39	4.0	学習内容と関連する最先端の事項の調査・報告する課題を課した。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	興味と理解が進むように改善を継続したい。

登録者数=47名：受験者数 A=45名：単位取得者数 B=45名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメント：「今年でこの授業を行うのが最後になるとのことだったので受講できてよかった」→カリキュラム改定により本年度が最後の開講である。この授業で得た知見を他授業にも活かしたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月26日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：アルゴリズムⅡ

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.57	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	3.93	4.0	重要事項の定着と理解の度合いの確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。
授業時間 ⑦	4.21	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.29	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.29	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.36	4.0	資料プリントやパワーポイントの導入を行った。また、授業内では可能な限り図・アニメの提示を行った。
アクティブな機会 ⑭	3.14	4.0	リモート授業の中で実施することが困難であった。リモート環境下での実施方法を研究したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.64	4.0	理解確認のための演習を増やし、内容の理解を促した。
全体評価 ⑯	4.21	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=53名：受験者数A=47名：単位取得者数B=47名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・授業スライドを授業前にダウンロードできるようにした。
- ・アルゴリズムの動き・データの変化を理解するため、図・アニメによる説明も可能な限り行った。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメント・・・なし

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月22日

授業対象学科：情報電子システム工学科、機械システム工学科

授業科目名：ソフトウェア工学

授業担当者（代表者）名：當金 一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.82	4.0	内容が「情報システムの構築」に関するものである為、まだ一方的である。今後、更なる工夫をしていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.24	4.0	授業中に適宜小テストを入れて指導しており、一定の理解は得られたと考える。
授業時間 ⑦	4.82	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.24	4.0	担当者の熱意についても評価されていると考えるが、自主的な学習をこれと結び付けていきたいと思う。
板書・教材 ⑩	4.35	4.0	授業中で必要な教材については十分に供給しているが、今後予習・復習用の教材を充実させていきたい。
理解への配慮 ⑪	3.65	4.0	学生の理解度を見ながら授業を進めている積りではいるが、理解度を向上させるために更に自主的な学習を推進したい。
伝える工夫 ⑬	4.41	4.0	伝える工夫については一定の評価を得たと考える。今後更に自主学習を組み合わせ、より良く学べるようにしていきたい。
アクティブな機会 ⑭	2.59	4.0	当てたり、自ら発表したりという機会があまり作れていない。今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.76	4.0	自ら学ぶ態度についても今後自主教材を提供するとうして、涵養していきたいと考える。
全体評価 ⑯	4.12	4.0	全体としてはかなり高評価をしてもらっていると思うが、今後、自主的に学ぶ態度を更に伸ばしていきたいと考える。

登録者数=61名：受験者数A=61名：単位取得者数B=60名：比率(B/A)=99%

総括（自由記述に対する対応含む）：

まだ自ら学ぶ態度についての配慮が足りないことから、今後自主的に学べる教材を提供していきたいと考える。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：全学科

授業科目名：ベンチャービジネス論

授業担当者（代表者）名：當金 一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.33	4.0	各自にビジネスプランの作成を最終課題（10 点）とするなど、一定の対策は行ったが、今後更に工夫したい。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	毎回授業中の内容を記述させていたが、今後分からなかった部分を記入する場所を設ける等の工夫をしていきたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	担当者の熱意についても評価されていると考えるが、自主的な学習を更に実施していきたいと思う。
板書・教材 ⑩	4.33	4.0	授業中で必要な教材については十分に供給しているが、今後更に予習・復習用の教材を充実させていきたい。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	学生の理解度を見るために今後、不明点を適宜確認しながら授業を進めていきたい。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	伝える工夫については、一定の評価を得られていると考える。今後、更に理解度を適宜確認する工夫をしていきたい。
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	授業中に教員から学生に問いを出して答えさせたり、手を挙げさせたりしてるが、更に皆で話し合う場を設けていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	自ら学ぶ態度についても今後自主教材を提供するとうして、涵養していきたいと考える。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	全体としてはそれなりに評価してもらっていると思うが、今後、自主的に学ぶ態度を更に伸ばしていきたいと考える。

登録者数 = 16 名： 受験者数 A = 13 名： 単位取得者数 B = 13 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

例年、各自にビジネスプランの作成を最終課題（10 点）として提出を求めているが、なかなか「これは」という案が出てきていない。

今後、よりビジネスプランの作成法に関する講義及び演習を工夫していくことで、受講生が実際に起業するまでの能力が身につけられるようにしていきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：応用統計学

授業担当者（代表者）名：當金 一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	宿題等を頻繁に出したので、自主的な学習は行えたと考えられる。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	内容の理解は概ね図られたのではと考える。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業時間は適切であったと評価されたと考える。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	担当者の熱意は評価されたと考える。
板書・教材 ⑩	2.0	4.0	今回は Powerpoint で内容を示し、プリントを配布し、教科書を使った授業であったが、板書はあまりしなかった。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	受講生の理解への配慮は行ったと評価されたと考える。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	伝える工夫については高評価を受けたと考える。
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	本授業は受講生が 1 名のみであり、他の人と討論するという機会は持ちえなかったが、今後検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	宿題を頻繁に出したことで、自ら学ぶ態度が醸成されたと評価されたと考える。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	全体の評価としては最高ではないが、それなりの高評価を得たと考える。

登録者数 = 1 名： 受験者数 A = 1 名： 単位取得者数 B = 1 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本授業は登録者が 1 名の授業であったので、じっくりと理解度を確かめながら授業を行うことが可能であった。板書はほとんどせずに、Powerpoint とプリントを配布しながら、教科書を用いた授業を展開したが、更に教材を今後、工夫していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電気回路Ⅱ

授業担当者（代表者）名：當金 一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.10	4.0	ほぼ毎回の講義で宿題を出し、それを次回に採点して返すということをしたのが評価されたと考える。
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	交流電気を三角関数、複素数を用いて計算する授業であるが、今後更に工夫して理解をしてもらうようにしたい。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間については適切に使われていると判断されていると考えられる。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	担当者の熱意を評価して貰ったと考える。
板書・教材 ⑩	4.53	4.0	PowerPoint 教材を用意し、更に板書、補助プリント等を配布したことが評価されたと思われる。
理解への配慮 ⑪	3.87	4.0	今後、補助教材や宿題に更なる工夫が必要であると考ええる。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	PowerPoint 教材に更なる工夫を加えたいと考える。
アクティブな機会 ⑭	2.87	4.0	なかなか学生自らが自分自身で創意工夫をする場面が作れていない。今後の課題としたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.80	4.0	今後は宿題で自ら調べる内容を出していきたいと考える。
全体評価 ⑯	4.03	4.0	全体としてはある程度評価してもらったと思う。今後はより工夫した授業を展開したいと考える。

登録者数 = 61 名： 受験者数 A = 61 名： 単位取得者数 B = 60 名： 比率 (B/A) = 99%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本授業は今年度から担当した科目であり、試行錯誤をしながらの授業となったが、それなりの評価が得られたのではないかと考える。

今後は教材に工夫を施し、より高い評価を得られるようにしていきたいと考える。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：CAD 応用

授業担当者（代表者）名：當金 一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.0	4.0	CAD ソフトの使用法の指導に時間がかかり、自主的な学習までいかなかった。今後、宿題を出せるよう工夫したい。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	内容の理解は概ね図られたのではと考える。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間は適切であったと評価されたと考える。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	担当者の熱意は評価されたと考える。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	今回は Powerpoint を含む教材は十分配布したので、それが評価されたと考える。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	受講生の理解への配慮は行ったと評価されたと考える。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	伝える工夫については高評価を受けたと考える。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	CAD ソフトを使った物体の制作がメインであり、他の人とのコラボがなかなか出来なかったが、今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	今後、CAD ソフトを自宅のパソコンに入れて宿題を出す等、自主的な学習ができるよう、工夫したい。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	全体の評価としては最高ではないが、それなりの高評価を得たと考える。

登録者数=9名：受験者数 A= 9名：単位取得者数 B= 9名：比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

本授業は CAD ソフトを使った物体の制作をメインに行うものであるが、他の人と話し合いながら「フィーチャー」を考慮した設計が行える資質を養成できるよう、今後教材、更に授業のやり方を工夫したい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 23 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車検査

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	4.9	4.0	「毎回の指導」が 90%であるので、評価を得ていると思うが、さらに自主学習のポイントを丁寧に指導していく
⑤ 内容の理解度	4.4	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で 100%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
⑦ 授業時間	4.6	4.0	評価を得ていると思う
⑧ 担当者の熱意	4.8	4.0	評価を得ていると思う
⑩ 板書・教材	4.7	4.0	評価を得ていると思う
⑪ 理解への配慮	4.8	4.0	「十分配慮」が 80%であり、評価を得ていると思う
⑬ 伝える工夫	4.6	4.0	アニメーションの積極的に活用している成果が出ており、評価を得ていると思う
⑭ アクティブな機会	4.4	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
⑮ 自ら学ぶ態度	4.6	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
⑯ 全体評価	4.4	4.0	「満足」と「大変満足」が 100%であり、評価を得ていると思う

登録者数 = 11 名：受験者数 A = 10 名：単位取得者数 B = 10 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・実務を理解しやすいように、さらに ICT 教育の推進を心掛けアニメーションを積極的に活用していく

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 23 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車法規

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.29	4.0	評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	3.57	4.0	理解度を向上させるために、ICT 教育を積極的に活用する
授業時間 ⑦	4.43	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.86	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.71	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.57	4.0	理解度の低い学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	評価を得ていると思う
アクティブな機会 ⑭	3.43	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	3.71	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.57	4.0	「満足」と「大変満足」が 100%であり、評価を得ていると思う

登録者数 = 7 名：受験者数 A = 7 名：単位取得者数 B = 6 名：比率 (B/A) = 86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・教科者中心の講義であるが、用語や規定を理解できるように写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 23 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 仮屋孝二

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.62	4.0	評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.38	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で 100%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
授業時間 ⑦	4.69	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.62	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.69	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.69	4.0	理解度の低い学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	4.69	4.0	動画や実物などを用いて理解への配慮を心掛ける
アクティブな機会 ⑭	4.46	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.46	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.46	4.0	評価を得ていると思う

登録者数 = 11 名： 受験者数 A = 10 名： 単位取得者数 B = 10 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・構造や機能を多面的に理解できるように、ICT 教育の推進を心掛け写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月23日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：電子応用機器

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.25	4.0	評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で75%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
授業時間 ⑦	4.25	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.25	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.25	4.0	理解度の低い学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	動画や実物などを用いて理解への配慮を心掛ける
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.5	4.0	評価を得ていると思う

登録者数 = 7名：受験者数 A = 7名：単位取得者数 B = 7名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

授業改善計画書（令和3年度 講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年 2月 25日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械工作実習

授業担当者（代表者）名：喜納 昌司

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	2.67	4.0	全員一斉に作業を進める為、毎回自ら進んで作業をすることが出来ない。
内容の理解 ③	4.0	4.0	各テーマで講義の内容と実際の作業等をリンクさせながら展開していきたい。
知識の増加 ⑤	3.67	4.0	専門言語等が多いため、もう少しわかりやすく周知していきたい。
板書・教材 ⑥	4.0	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声や明瞭な印刷プリントに心がけていきたい。
伝える工夫 ⑦	4.0	4.0	講義と実際の実習での違いに興味を持ってもらいたい。
全体評価 ⑧	4.67	4.0	しっかり個々が実習に携われる機会を継続して与えていきたい。

登録者数=24名：受験者数A=24名：単位取得者数B=20名：比率(B/A)=83%

総括（自由記述に対する対応含む）：

講義の内容と実際に実習を行った際に、分かりやすい解説などで実習を展開していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械加工学

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.63	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題をさらに織り交ぜていく。
内容の理解度 ⑤	4.13	4.0	小演習増や実際の工程見学も織り交ぜていきたいところ。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題の説明時間も確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.13	4.0	社会で活かせる！を追及し、より具体的事例をできるだけ動画・現地現物でさらに織り交ぜる
板書・教材 ⑩	4.63	4.0	オンライン授業にスマホで参加している学生見えているか？
理解への配慮 ⑪	4.13	4.0	小演習等をもう少し多用しながら、確認していく。
伝える工夫 ⑬	4.38	4.0	図絵・動画を多用した。現地現物ならなお良いのだが。
アクティブな機会 ⑭	3.63	4.0	講義時間が不足するが、小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.63	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。

登録者数=29名：受験者数 A=26名：単位取得者数 B=20名：比率 (B/A) =77%

総括（自由記述に対する対応含む）：

2 年生での機械工作実習を見据えて、加工条件の計算問題を多用した。

演習の計算問題に拒否反応を示す学生も多いので、問題の出し方に留意していきたい。

また量が多すぎるとの意見もあったので、もう少しポイントを絞り込んでゆっくり進めていきたい。

オンラインでも演習・発表→相互理解が活発に行われるような施策を考えていきたい。

また実際の工程見学も織り交ぜていきたいところ。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械製図

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.71	4.0	講義内容に関する自主学习のための課題・宿題を織り交ぜてより理解を深める。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	講義内容に関する自主学习のための課題・宿題を織り交ぜてより理解を深める。
授業時間 ⑦	4.86	4.0	テキスト説明より、使うより慣れる！なので、演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.43	4.0	社会で活かせる！を念頭に現物も準備し説明の中に織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	プロジェクタ旧・スクリーンが小さく距離も離れているため、あまり書き込み過ぎないように留意。
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	4.14	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.86	4.0	製図を仕上げるのに一所懸命になり、構造的工夫点を織り込む課題も課したが、発表時間を確保できなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.43	4.0	大半の学生が課題を自宅持ち帰りで実施していた。量を減らし、質を上げる工夫が必要。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。もう少し足並みを揃えて進められるように調整。

登録者数=30名：受験者数 A=30名：単位取得者数 B=25名：比率 (B/A) =83%

総括（自由記述に対する対応含む）：

トレース→部品図→組立図製図とステップアップできるようにしたが、本来は設計の要素も少し入れたところだった。

量が多すぎるとの声が多かったので、量をもう少し絞り込み質を上げる方へ振り替えたい。

進捗に大幅な格差ができてしまい、個別指導を繰り返す状態となった。

もう少し足並みが揃うように区切って進めていく。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：CAD 基礎

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.33	4.0	学生個人用 CAD ソフトを紹介し、自主的に自宅学習できるようにしたい。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	個別差が大きく、全体同時進行しにくい。TA 制度が充実できると良い。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習も織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	大型ディスプレイが適所に配置されている。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.17	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。さらに上を目指せるように指導していく。

登録者数=20名：受験者数 A=17名：単位取得者数 B=17名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

受講人数に対し TA が適正に配置できた。

進捗の速い学生への追加課題・声掛け・対応もやれるようにしていく。

操作基本なので、反復練習できるように指導していく。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：数値シミュレーション

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.67	4.0	講義内容に関する自主学习のための課題・宿題を織り交ぜていく。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	静解析で手計算にも時間を割き、CAEの結果との整合性を取る時間を確保し、理解を深める。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	各端末を利用した計算能力により待ち時間大。計算用 CPU が準備できると良い。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	社会で活かせる！を追及し、より具体的事例を動画で織り交ぜながら説明を行った。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	CAEソフトのVerUPに見合ったテキストへ更新。説明しやすくなった。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	類似事例の反復演習ができるような、演習を準備していく。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	図絵・動画を多用した。現地現物ならなお良いのだが。
アクティブな機会 ⑭	2.67	4.0	小人数だったので、アクティブにディスカッションできていたと思う。発表スタイルを望んでいる？
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

卒研で使用する学生が多々いたので、授業→卒研で反復練習により理解が深まったと思われる。

CAE 結果の Moodle への提出をデータ量大の為断念。サーバー増強できると良い。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：CAD リテラシー

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	2.0	4.0	学生個人用 CAD ソフトを紹介し、自主的に自宅学習できるようにしたい。
⑤ 内容の理解度	4.0	4.0	個別差が大きく、全体同時進行しにくい。TA 制度が充実できると良い。
⑦ 授業時間	5.0	4.0	テキスト説明より、使うより慣れる！なので、演習時間を多く確保していく。
⑧ 担当者の熱意	5.0	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習も織り交ぜていきたい。
⑩ 板書・教材	5.0	4.0	大型ディスプレイが適所に配置されている。
⑪ 理解への配慮	4.0	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり遅れている学生の対応に時間がとられる。
⑬ 伝える工夫	5.0	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
⑭ アクティブな機会	4.0	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
⑮ 自ら学ぶ態度	3.0	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
⑯ 全体評価	5.0	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。さらに上を目指せるように指導していく。

登録者数 = 6 名：受験者数 A = 3 名：単位取得者数 B = 3 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今期は人数多く、個別対応が手薄になった。

さらに人数増えると困難が予想される。TA の充実ができると良い。

進捗の速い学生への追加課題・声掛け・対応もやれるようにしていく。

操作基本なので、反復練習できるように指導していく。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：CAD 演習 II

授業担当者（代表者）名：杉安 幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.0	4.0	学生個人用 CAD ソフトを使用すれば、 自主的に自宅学習できるようになる。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	特になし
授業時間 ⑦	5.0	4.0	特になし
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	特になし
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	大型ディスプレイが適所に配置されている。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	特になし
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	特になし
アクティブな機会 ⑭	2.0	4.0	黙々と集中して取り組んでいたもので、中断するのを躊躇した。 他人のものを自由に見て参考にするように指導している。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	特になし
全体評価 ⑯	5.0	4.0	教科書不要。

登録者数 = 4 名： 受験者数 A = 4 名： 単位取得者数 B = 3 名： 比率 (B/A) = 75%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本年度より新規開講の科目で CAD リテラシー → CAD 演習 I に次ぐ科目。

ものづくりの基本的流れ、製品構想～製品企画（製品仕様決定）～設計構想～構造計画（仕様に基づき概要計算）～詳細部品設計～組立図作成～製品図作成～出図の一連の流れを学ぶ。最終的に実際に製造できる図面を作成する。航空基礎製図～CAD リテラシー～CAD 演習 I で学んだことを生かし、ものづくりの流れを体感するといった内容。何もないところから図面を産出するため、四苦八苦していたところもあったが、楽しくやれたようだ。進捗がまちまちだが、他人のものを見る機会を増やしたい。

製作図の寸法・公差・表面性状等の記入の考え方に関する講義を充実させたほうが良さそう。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 3 月 1 日

授業対象学科： 機械システム

授業科目名： 機械要素強度学

授業担当者（代表者）名： 大恵 克俊

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.25	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	やや低い値となった 理解度チェックテストの実施を検討
授業時間 ⑦	4.67	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.08	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.42	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.42	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	概ね高い評価を得られていると考える 演習問題の解答を順番で学生にやらせる等を検討
自ら学ぶ態度 ⑮	4.08	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	3.92	4.0	概ね高い評価を得られていると考える

登録者数 = 13 名： 受験者数 A = 12 名： 単位取得者数 B = 9 名： 比率 (B/A) = 75%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（15%）、レポート（15%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試も含めて 75%と R2 年度（86%）と比べてやや低い値となった。

アンケートの標点で 4.0 に満たなかった、内容の理解度のチェックテストの実施や、講義中に学生に演習問題を前で解かせる等の刺激策が必要か。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 3 月 1 日

授業対象学科： 機械システム

授業科目名： 応用福祉工学

授業担当者（代表者）名： 大恵 克俊

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.80	4.0	概ね高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	高い評価を得られていると考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数 = 8 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート（70%）で評価した。

学習目標の達成：自主学习指導以外は目標を達成した。自主学习に関して詳細な指導を行うよう検討する。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月1日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：福祉工学

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.20	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.60	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.50	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.30	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	高い評価を得られていると考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.30	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.30	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数=10名：受験者数A=10名：単位取得者数B=9名：比率(B/A)=90%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート（70%）で評価した。

学習目標の達成：全ての項目において目標を達成した。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科： 機械システム工学科（1 年）

授業科目名： 工業化学基礎

授業担当者（代表者）名： 大脇 康博

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.82	4.0	宿題として各章毎に演習問題を提出させた。
内容の理解度 ⑤	3.48	4.0	1 人 1 人に質問しながら、それぞれの理解度を確認しながら進めていった。
授業時間 ⑦	4.55	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.24	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.55	4.0	使用していた教科書が廃版になった為、それまで使用した内容を基に PPT を使って授業を行った。
理解への配慮 ⑪	4.30	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.24	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	3.27	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.48	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	3.97	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=41 名： 受験者数 A=40 名： 単位取得者数 B=38 名： 比率 (B/A) =95.0%

総括（自由記述に対する対応含む）：

使用するテキストの関係もあり、どうしても一方通行的な授業になってしまった。

来年度は教科書及び授業内容を見直し、もっと自分で考えながら進められるようにする。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：機械システム工学科（1年）

授業科目名：材料工学

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	3.90	4.0	章ごとに小テストを行い、授業外で自主学习するよう仕向けた。
⑤ 内容の理解度	3.58	4.0	公式、計算問題は少ないので理解するのは難しくないはずである。 1部の学生が足を引っ張っているものと思われる。
⑦ 授業時間	4.23	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
⑧ 担当者の熱意	3.94	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
⑩ 板書・教材	4.29	4.0	PPT資料を中心に授業を行い、補足の動画も見せながら、理解度を深めるよう努めた。
⑪ 理解への配慮	4.13	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
⑬ 伝える工夫	4.00	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
⑭ アクティブな機会	3.39	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
⑮ 自ら学ぶ態度	3.29	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
⑯ 全体評価	3.77	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=38名：受験者数A=35名：単位取得者数B=33名：比率(B/A)=94.3%

総括（自由記述に対する対応含む）：

特になし。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 21 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 情報リテラシー

授業担当者（代表者）名： 中井 雄貴

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.05	4.0	自主学習用にサンプル資料を提示して自習し易いよう努めた。 パソコン未購入の学生がいるため入学時に購入を勧めたい。
内容の理解度 ⑤	4.80	4.0	元々の個人差はあるが、課題作成・提出をさせることで各自の 理解度を深めた。TA 制度を活用してフォローしたい。
授業時間 ⑦	4.90	4.0	説明と作業の時間を適切に配分できた。 学習進度が早い学生に対して、内容を充実していく。
担当者の熱意 ⑧	4.30	4.0	卒業研究や社会人としての PC スキルを念頭に置いた内容であ ったが、より身近に必要性を感じられるように工夫したい。
板書・教材 ⑩	4.85	4.0	毎回配布資料を作成した。 内容を充実させていく。
理解への配慮 ⑪	4.85	4.0	理解度に個人差があるため、TA 制度の活用を継続して個別に対 応していく。
伝える工夫 ⑬	4.85	4.0	身近なテーマを扱い講義を行った。
アクティブな機会 ⑭	4.20	4.0	テーマごとの個々人の課題発表の機会を設けたが、ディスカッ ションの機会を増やしていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.55	4.0	毎回課題を与えて授業中に作業を進める形式で行った。自由な テーマで課題作成する機会を増やしたい。
全体評価 ⑯	4.70	4.0	情報リテラシーに関して基礎的な内容は学習できたと思う。 学生が PC を使用し、発表できる場を設けたい。

登録者数=37名： 受験者数 A=36名： 単位取得者数 B=36名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

情報リテラシーの基礎を学ぶことができた。

課題発表の際にディスカッションする機会を増やしたい。

授業改善計画書（令和3年度 講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年 2月22日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習 I

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.43	4.0	座学との連携は常に意識を持ち授業をすすめている
内容の理解 ③	4.14	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
知識の増加 ⑤	4.29	4.0	興味を持たせる工夫をさらにしていきたい
板書・教材 ⑥	4.57	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
伝える工夫 ⑦	4.14	4.0	よりわかりやすくする工夫を行っていきたい。
全体評価 ⑧	4.57	4.0	自主性を持たせるなどの課題を優先して改善して行きたい。

登録者数 = 7名：受験者数 A = 7名：単位取得者数 B = 7名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

初めての自動車実習ということもあり、実習内容から自動車の理解を深めることをテーマに進めることが出来たと思う。

授業改善計画書（令和3年度 講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年 2月22日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習Ⅲ

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.88	4.0	座学との連携は常に意識を持ち授業をすすめている
内容の理解 ③	4.50	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
知識の増加 ⑤	4.75	4.0	自動車の魅力・興味を持たせる工夫をさらにしていきたい
板書・教材 ⑥	5.00	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
伝える工夫 ⑦	4.75	4.0	よりわかりやすくする工夫を行って行きたい。
全体評価 ⑧	4.88	4.0	自主性を持たせるなどの課題を優先して改善して行きたい。

登録者数 = 11名：受験者数 A = 11名：単位取得者数 B = 11名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業に積極的に参加し、達成感を個人個人が感じることが出来るような授業づくりを行って行きたい。

授業改善計画書（令和3年度 講義）（実験・実習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年 2月22日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習V

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.89	4.0	座学との連携は常に意識を持ち授業をすすめている
内容の理解 ③	4.56	4.0	座学との連動を重点に置き、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
知識の増加 ⑤	4.67	4.0	自動車の魅力・興味を持たせる工夫をさらにしていきたい
板書・教材 ⑥	4.89	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
伝える工夫 ⑦	5.00	4.0	よりわかりやすくする工夫を行って行きたい。
全体評価 ⑧	5.00	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような雰囲気づくりを高めていきたい。

登録者数 = 9名：受験者数 A = 9名：単位取得者数 B = 9名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

卒業前の最後の自動車実習ということもあり、就職後も視野に入れた実習を行うことが出来たと思う。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月8日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：熱力学基礎

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学習方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	ある程度(33.3%)、完璧に(33.3%)の理解度を示しているが、半分の理解(33.3%)といるためより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	全員が熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	全員が「ある程度理解に配慮」以上（100%）で配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	全員が「ある程度工夫している」以上と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	2.33	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.33	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	満足以上が66.6%で、どちらでもないが33.3%と、全体的に目標値以上であるが、全員が満足していないため、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数 = 19名： 受験者数 A = 19名： 単位取得者数 B = 19名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

シラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において85.7%（7名中6名）で、未取得者1名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めて行きたいと考える。

その他：有効回答数が少なかつたため、最後の授業中にアンケート回答の時間を取り、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月8日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車工学I

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	4.2	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学习方法の周知徹底をはかる。
⑤ 内容の理解度	3.4	4.0	ある程度(40%)、完璧に(40%)の理解度を示しているが、少しの理解(20%)といるためより分かりやすく解説する。
⑦ 授業時間	4.8	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
⑧ 担当者の熱意	4.6	4.0	全員が熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
⑩ 板書・教材	4.8	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
⑪ 理解への配慮	4.4	4.0	全員が「ある程度理解に配慮」以上が80%で配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
⑬ 伝える工夫	4.2	4.0	全員が「ある程度工夫している」以上と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
⑭ アクティブな機会	2.8	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
⑮ 自ら学ぶ態度	3.4	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
⑯ 全体評価	4.2	4.0	満足以上が80%で、どちらでもないが20%と、全体的に目標値以上であるが、全員が満足していないため、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数 = 7名：受験者数 A = 7名：単位取得者数 B = 6名：比率 (B/A) = 85.7%

総括（自由記述に対する対応含む）：

ラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において85.7%（7名中6名）で、未取得者1名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めて行きたいと考える。

その他：有効回答数が履修者13名中5名であったため、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月8日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車工学Ⅲ

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.43	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学习方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	4.29	4.0	ある程度(14.3%)、完璧に(57.1%)の理解度を示しているが、半分の理解(28.6%)といるためより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	4.57	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	85.7%がかなり熱意を感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.43	4.0	「ある程度理解に配慮」以上が85.7%で配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	全員が「ある程度工夫している」以上と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	3.86	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.14	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	4.57	4.0	満足以上が85.7%で、どちらでもないが14.3%と、全体的に目標値以上であるが、全員が満足していないため、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 7名： 単位取得者数 B = 7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

シラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において100%（7名中7名）で、未取得者0名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めて行きたいと考える。

その他：有効回答数が履修者7名中6名であったため、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 工業力学基礎

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
授業時間 ⑦	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
板書・教材 ⑩	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	おおよそ問題ないと判断している
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
全体評価 ⑯	3.75	4.0	おおよそ問題ないと判断している

登録者数=41名： 受験者数 A=36名： 単位取得者数 B=32名： 比率 (B/A) =88%

総括（自由記述に対する対応含む）：

課題提出を「やらない」という選択肢を取る学生が多く、発表の機会などを増やすことで取り組まなければならない空気感を作りたい。アンケートへの解答率が著しく悪いため、来年度以降は改善を図る。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：メカトロニクス概論

授業担当者（代表者）名：武田 隆宏

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑤ 内容の理解度	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑦ 授業時間	4.40	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑧ 担当者の熱意	4.20	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑩ 板書・教材	4.40	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑪ 理解への配慮	3.80	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑬ 伝える工夫	4.40	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑭ アクティブな機会	3.80	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑮ 自ら学ぶ態度	5.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑯ 全体評価	3.60	4.0	おおよそ問題ないと判断している

登録者数=22名：受験者数A=21名：単位取得者数B=21名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

課題提出を「やらない」という選択肢を取る学生が多く、発表の機会などを増やすことで取り組まなければならない空気感を作りたい。特にオンラインでは、参加しているのかどうかわかりにくい場合があったので、相互に発信できる授業形態としたい。アンケートへの解答率が著しく悪いため、来年度以降は改善を図る。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年2月28日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 機械運動学

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	3.75	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑤ 内容の理解度	3.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑦ 授業時間	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑧ 担当者の熱意	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑩ 板書・教材	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑪ 理解への配慮	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑬ 伝える工夫	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑭ アクティブな機会	3.25	4.0	ディスカッション形式の課題を取り入れ改善を図る
⑮ 自ら学ぶ態度	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している
⑯ 全体評価	4.25	4.0	おおよそ問題ないと判断している

登録者数=16名： 受験者数A=14名： 単位取得者数B=12名： 比率(B/A)=85%

総括（自由記述に対する対応含む）：

アンケートへの解答率が著しく悪いため、来年度以降は改善を図る。

区切りの良い箇所での演習課題という形式で行っているが、アクティブな機械を増やすようなディスカッション形式の課題を取り入れる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 数値制御のプログラミング

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
授業時間 ⑦	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
担当者の熱意 ⑧	3.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
全体評価 ⑯	3.50	4.0	おおよそ問題ないと判断している

登録者数=23名： 受験者数 A=22名： 単位取得者数 B=21名： 比率 (B/A) =95%

総括（自由記述に対する対応含む）：

課題提出を「やらない」という選択肢を取る学生が多く、発表の機会などを増やすことで取り組まなければならない空気感を作りたい。アンケートへの解答率が著しく悪いため、来年度以降は改善を図る。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 28 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 計算力学

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	おおよそ問題ないと判断している
授業時間 ⑦	4.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	おおよそ問題ないと判断している
全体評価 ⑯	4.00	4.0	おおよそ問題ないと判断している

登録者数=21名： 受験者数 A=20名： 単位取得者数 B=18名： 比率 (B/A) =90%

総括（自由記述に対する対応含む）：

課題提出を「やらない」という選択肢を取る学生が多く、発表の機会などを増やすことで取り組まなければならない空気感を作りたい。アンケートへの解答率が著しく悪いため、来年度以降は改善を図る。

PC 教室などを利用し、エクセルなどで実際に問題のグラフ化などを行う演習を取り入れていきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科：機械システム工学／航空工学

授業科目名：材料力学基礎

授業担当者（代表者）名：満丸 浩

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	次の授業内容を明確に示すようにします。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	前時の復習テストを実施するなどの工夫をします。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	概ね良好と考えます。
担当者の熱意 ⑧	4.3	4.0	概ね良好と考えます。
板書・教材 ⑩	4.2	4.0	実際に使われている場面を示すなど、教材の工夫を進めます。
理解への配慮 ⑪	4.4	4.0	さらに理解を深める教材を作成していきます。
伝える工夫 ⑬	4.2	4.0	双方向の授業に取り組むなどの工夫をします。
アクティブな機会 ⑭	3.7	4.0	発表の機会を増やすなどの工夫をします。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	主体的な学びができるような課題設定をします。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	基礎科目であるという視点での内容の精選に取り組みます。

登録者数=45名：受験者数 A=40名：単位取得者数 B=39名：比率 (B/A) =97.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

対面・オンライン授業で、アンケート回答率は 95.0%（38 人／40 人）です。

「材料力学」「応用材料力学」の履修につながる科目であり、すべての学生が基礎的な要素について、確実に習得できるよう工夫を重ねます。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 25 日

授業対象学科： 全学科

授業科目名： 機械工学基礎概論

授業担当者（代表者）名： 満丸 浩

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.2	4.0	次の授業内容を明確に示し、積極的な授業参加を促します。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	実物や映像を活用するなどして、理解できる工夫をします。
授業時間 ⑦	4.7	4.0	概ね良好と考えます。
担当者の熱意 ⑧	4.6	4.0	概ね良好と考えます。
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	概ね良好と考えます。
理解への配慮 ⑪	4.6	4.0	概ね良好と考えます。
伝える工夫 ⑬	4.7	4.0	概ね良好と考えます。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	グループ討議等を研究します。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.4	4.0	興味の湧く事例を取り扱うなどの工夫をします。
全体評価 ⑯	4.4	4.0	双方向の授業を心がけ、満足のいく工夫を心がけます

登録者数=65名： 受験者数 A=57名： 単位取得者数 B=55名： 比率 (B/A) =96.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

対面・オンライン授業で、アンケート回答率は 94.8%（55 人／58 人）です。

対面授業では、実際に工場の工作機械を見学するなどしたことが理解を深めたと思います。

自主研究や発表の機会も設け、更に分かりやすく、きめ細かな指導に努めます。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：道路工学

授業担当者（代表者）名：岩元 泉 所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.43	4.0	次回の講義内容を説明し、学生にも教科書に目を通すように指示しました。予習課題が少なかったので、改善したい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	教科書を基本するが、更に内容に興味を示すように最新の道路事情や施工技術ついて習得させたい。
授業時間 ⑦	4.29	4.0	時間は適正と考えられる
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	学生から熱意を感じられてると判断する。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	スライド中心であるが画像や図なども取り入れて、学生が興味を示すように更に改善していく。
理解への配慮 ⑪	4.43	4.0	授業中、呼びかけて理解度を確認することはあるが、学生の反応が鈍い。
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	最新の土木業界の道路技術が伝えられるように情報収集を進めていく。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学生自身に意見する発表する機会を更に設けたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.14	4.0	学生自身が考える機会や興味を示す内容に改善する。
全体評価 ⑯	4.57	4.0	適正である。

登録者数 = 11 名： 受験者数 A = 11 名： 単位取得者数 B = 11 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

アクティブな機会を設けて、学生自身が考えて、意見する機会を設ける。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： 施工管理Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岩元 泉 所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.44	4.0	次回の講義内容を説明し、学生にも教科書に目を通すように指示しました。予習課題が少なかったなので、改善したい。
内容の理解度 ⑤	4.28	4.0	講義の後半に復習課題等を行っていたが、更に次回の講義で内容を復習する時間も設けるべきである
授業時間 ⑦	4.5	4.0	時間は適正と考えられる
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	学生から熱意を感じられてると判断する。
板書・教材 ⑩	4.94	4.0	スライド中心であるが画像や図なども取り入れて、学生が興味を示すように更に改善していく。
理解への配慮 ⑪	4.61	4.0	授業中、呼びかけて理解度を確認することはあるが、学生の反応が鈍い。
伝える工夫 ⑬	4.78	4.0	最新の土木業界の施工技術が伝えられるように情報収集を進めていく。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	学生自身に意見する発表する機会を更に設けたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	学生自身が考える機会や興味を示す内容に改善する。
全体評価 ⑯	4.78	4.0	適正である。

登録者数 = 19 名： 受験者数 A = 19 名： 単位取得者数 B = 19 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

アクティブな機会を設けて、学生自身が考えて、意見する機会を更に設ける。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科 2 年・全学科教職

授業科目名：土木工学基礎概論

授業担当者（代表者）名：岩元 泉 所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.96	4.0	次回の講義内容を説明し、学生にも教科書に目を通すように指示しました。予習課題が少なかったため、改善したい。
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	スライド中心の講義であるため、更に映像なども含めて土木について理解してもらえる内容に改善する。
授業時間 ⑦	4.38	4.0	時間は適正と考えられる
担当者の熱意 ⑧	4.29	4.0	学生から熱意を感じられてると判断する。
板書・教材 ⑩	4.71	4.0	スライド中心であるが画像や図なども取り入れて、学生が興味を示すように更に改善していく。
理解への配慮 ⑪	3.79	4.0	Zoom での授業で理解度を確認するのは難しいがチャットなどで気軽に学生が確認しやすいように改善する。
伝える工夫 ⑬	4.42	4.0	最新の土木業界の技術が伝えられるように情報収集を進めていく。
アクティブな機会 ⑭	4.13	4.0	学生自身に意見する発表する機会を更に設けたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	学生自身が考える機会や興味を示す内容に改善する。
全体評価 ⑯	4.38	4.0	適正である。

登録者数 = 70 名： 受験者数 A = 70 名： 単位取得者数 B = 68 名： 比率 (B/A) = 98 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

土木工学について、将来、教員となる立場での最低限の内容を理解できるように伝えたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28日（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：環境微生物学

授業担当者（代表者）名：高嶋 洋

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.6	4.0	事前配布資料等を充実させて参りたい。
内容の理解度 ⑤	3.8	4.0	平易な言葉と具体的な図表等で理解を促進した。引き続きわかりやすさを求めている。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	時間はきっちり使い切るが、逆に足りなくなることが多々あった。理解との兼ね合いが課題。
担当者の熱意 ⑧	4.6	4.0	100%全力で取り組んだ。
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	教材作成に時間をかけた。
理解への配慮 ⑪	4.6	4.0	学生に対する直接の問いかけを増やした。
伝える工夫 ⑬	4.2	4.0	解説の順番に工夫を凝らした。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	オンライン授業で、一方的な解説となるため、一人一人への問いかけを大幅に増やした。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.4	4.0	関係する書籍などを紹介し、指導を行った。
全体評価 ⑯	4.4	4.0	積極的な学生を活用し、より積極的な展開が図れるよう、工夫したい。

登録者数=12名：受験者数A=12名：単位取得者数B=7名：比率(B/A)=58.3%

総括（自由記述に対する対応含む）：

単位取得修了者が2名、自主的に聴講するなど、関心の高さを感じた。単位取得者割合が低くなったのは、帰国した留学生がいたほか、朝1限目の授業であり、欠席が多く必要出席数が確保できない生徒が複数いたことによる。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28日（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：水環境工学

授業担当者（代表者）名：高嶋 洋

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.17	4.0	事前配布資料等を充実させて参りたい。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	平易な言葉と具体的な図表等で理解を促進した。引き続きわかりやすさを求めている。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	時間はきっちり使い切るが、逆に足りなくなることが多々あった。理解との兼ね合いが課題。
担当者の熱意 ⑧	4.92	4.0	100%全力で取り組んだ。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	教材作成に時間をかけた。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	学生に対する直接の問いかけを増やした。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	解説の順番に工夫を凝らした。
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	一方的な解説となりがちなため、一人一人への問いかけを増やした。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	関係する書籍や実際の現場の話を紹介し、指導を行った。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	積極的な学生を活用し、より積極的な展開が図れるよう、工夫したい。

登録者数=17名：受験者数A=17名：単位取得者数B=16名：比率(B/A)=94.1%

総括（自由記述に対する対応含む）：

水に関わる諸所の事項を総括的に教えるため、総論的となってしまうが、具体的な現場の状況などを説明して、個別の理解も図る工夫を行った。引き続き、興味を持って取り組んでもらえる工夫を検討したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28日（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：水環境実験

授業担当者（代表者）名：高嶋 洋

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	事前配布資料等を充実させた。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	平易な言葉と実際の現場での観察等で理解を促進した。引き続きわかりやすさを求めている。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	実験枠をフルに活用し、野外での実習ができた。実験枠が減少すると、この取り組みが難しくなるので今後の課題である。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	100%全力で取り組んだ。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	野外の現場は生きた教材である。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	学生一人一人に対する直接の問いかけを行い、真の自然を理解できた。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	解説の順番に工夫を凝らした。
アクティブな機会 ⑭	4.75	4.0	野外中心で指導を行い、実際の体験を通じ理解が促進された。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	資料に自ら手を加え、実習の意味を復讐するなど、大変積極的な取り組みが見られた。
全体評価 ⑯	4.75	4.0	現場の幅や内容を広げ、より積極的な展開が図れるよう、工夫したい。

登録者数=4名：受験者数A=4名：単位取得者数B=4名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

机上ではなく、実際のフィールドを体験することで、自然の仕組みを肌で実感でき、大変大きな教育効果が得られた。大人数では収容できない現場もあるが、できる範囲で活用してまいりたい。

なお、本講義は実験・実習に相当するが、授業評価が通常の授業評価のリストで提供されたため、通常の講義用授業改善フォームを使用した。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土質力学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：寺村 淳

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.33	4.0	授業時間内に振り返り課題を取り組んでいたため、復習の機会はつくっていたが、時間外の自主学習の機会をつくっていなかったため改善したい。
内容の理解度 ⑤	4.22	4.0	理解度の確認は随時課題で確認したが、より達成度を明確にする方法を検討したい
授業時間 ⑦	4.44	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.22	4.0	
板書・教材 ⑩	4.44	4.0	白黒・数式・文章量が多いなど、情報過多であったため、図解などを入れ改善したい
理解への配慮 ⑪	3.33	4.0	要点の濃淡が薄くなっていたため、要所の明確化とメリハリをつけた解説を心掛けたい
伝える工夫 ⑬	3.89	4.0	パワーポで大量の情報を提供しているため、動画・図解などを取り入れ理解度を高めたい
アクティブな機会 ⑭	3.22	4.0	課題の教え合いを試行したがあまり効果的でなかった。 より具体的な教え合いの工夫をとりたい
自ら学ぶ態度 ⑮	3.89	4.0	土質の実験などとリンクした学びを提供し、学びの主体性を高めたい
全体評価 ⑯	4.11	4.0	情報過多で抑揚のない授業になってしまっていたと思われるため、学びのメリハリができるよう工夫したい

登録者数=23名：受験者数A=23名：単位取得者数B=21名：比率(B/A)=91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

土質力学は、決まった指導内容があり、分量も多いため、学生の理解度より進捗を優先してしまいがちな授業になっていたと考えられる。

指導内容の取捨選択をし、改善したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：ランドスケープ論

授業担当者（代表者）名：寺村 淳

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	グループワーク・ディスカッションに重点を置いた授業であったため、予習復習のし辛い授業校生となっていた。小レポートなどを増やすことで復習を促したい
内容の理解度 ⑤	4.24	4.0	理解度の確認をする機会が少なかったため、小レポートなどで理解度確認を行うようにしたい
授業時間 ⑦	4.80	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.72	4.0	
板書・教材 ⑩	4.68	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.52	4.0	理解度の確認をする機会が少なかったため、小レポートなどで理解度確認を行うようにしたい
伝える工夫 ⑬	4.72	4.0	地元の方の協力のもと、地域見学を行った
アクティブな機会 ⑭	4.72	4.0	オンラインでのグループワークのため Jamboard や Miro 等のアプリの利用に挑戦したが、受講者の環境によって使いやすさなどが大きく異なった。対面授業でも WEB 授業でも、ディスカッションを行える場を充実させたい
自ら学ぶ態度 ⑮	4.76	4.0	
全体評価 ⑯	4.36	4.0	

登録者数=29名：受験者数 A=26名：単位取得者数 B=26名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

グループワークと現地見学などを取り入れ、アクティブラーニングを心掛ける授業にしたが、今後はよりグループワークの充実を図りたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：資源再生工学

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	学ぶ意欲が旺盛な学年であったため特段の工夫を要しなかった。
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	日本語がほとんどできない中国人留学生には通訳をつけ、モロッコ人には英語で指導をした。
授業時間 ⑦	4.8	4.0	授業時間いっぱいを利用して留学生の支援を行った事が高評価につながったと感じる。
担当者の熱意 ⑧	4.8	4.0	“
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	時事問題を交えた講義が効果を上げたと感じる。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	日本語がほとんどできない中国人留学生には通訳をつけ、モロッコ人には英語で指導をした。
伝える工夫 ⑬	4.8	4.0	“
アクティブな機会 ⑭	4.8	4.0	できるだけ自分で調査をさせた効果が出たと感じる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.8	4.0	“
全体評価 ⑯	4.8	4.0	極めて真面目な受講生であったため、言葉が異なる混成チームではあったが、無事、講座を終了する事が出来た。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 6名： 単位取得者数 B = 6名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

日本語がほとんどできない中国人留学生には通訳をつけ、モロッコ人には英語で指導をするなど、個別に細かく対応した結果、良い成績を上げることができたと感じている。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：環境アセスメント

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.5	4.0	できるだけ自分で調べるよう誘導したが効果が出たと感じている。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	教科書が難解なため、一部の学生には、ついてくるのが大変であった。国語力のない学生への配慮をさらに工夫したい。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	学生の反応を見ながら、文書、図表、動画を使い分けた効果が出たと感じている。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	1コマの準備に数日かけた効果が出たと感じる。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	“
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	“
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	公文書を読み込む学力のない学生がほとんどなので、小学生レベルの言葉に変換した解説を行った。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	野外観察も含めて、できるだけ刺激を与えるように、工夫した。次年度もこの方向で進めたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	よいノートに加点をすると宣言したところ、全員が、非常に丁寧なノートを作成、提出した。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	全員真面目で、信頼関係を築くことができた点が、非常に良かったと感じている。

登録者数 = 10名： 受験者数 A = 10名： 単位取得者数 B = 10名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全員が真面目な取り組みであった。

受講生の真面目さを評価する工夫を今後も続けてゆきたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月16日

授業対象学科：自然環境工学科、建築デザイン学科

授業科目名：測量学I

授業担当者（代表者）名：田中龍児 所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	目標評点に達している。
内容の理解度 ⑤	3.4	4.0	課題を与え考えさせたい。
授業時間 ⑦	4.2	4.0	目標評点を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.2	4.0	目標評点を超えている。
板書・教材 ⑩	4.4	4.0	目標評点を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.2	4.0	目標評点を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.2	4.0	目標評点を超えている。
アクティブな機会 ⑭	3.8	4.0	アクティブな機会を設定する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.4	4.0	目標評点を超えている。
全体評価 ⑯	3.6	4.0	もう少し理解しやすい授業にしたい。

登録者数=44名：受験者数A=38名：単位取得者数B=38名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

計算が多く内容が難しかったかも知れない。反省する。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月16日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：測量学実習

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.5	4.0	レポートなど増やして対応する。
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	評点目標を超えている。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	評点目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	評点目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	評点目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	評点目標を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	評点目標を超えている。
アクティブな機会 ⑭	3.5	4.0	さらにアクティブな機会を設定したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	評点目標を超えている。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	評点目標を超えている。

登録者数=23名：受験者数A=23名：単位取得者数B=23名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね、評点目標を超えており、授業そのものには満足しているようである。

今回は全員、実習フォームではなく講義フォームに回答していた。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土木材料学

授業担当者（代表者）名：難波

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.50	4.0	毎回の宿題や予習の課題を準備して自主学習の習慣を身に付けさせたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.50	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学生とのやり取り、学生と学生とのやり取りを継続して取り入れて行きたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	学問の趣旨なぜこれを学ばないといけないかを、これまでにしっかりと周知しておりその評価であると考えます。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	反省を行いブラッシュアップしていきたい。

登録者数＝ 名： 受験者数 A=24 名： 単位取得者数 B=24 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の施工過程や構造物機構とリンクさせて今後は講義を継続していきたい。
予習復習の課題を用意していく。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：構造力学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：難波

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.15	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.80	4.0	予習復習をさせるようにする課題もさらに追加。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	4.70	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.70	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.90	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.85	4.0	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.65	4.0	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する 必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数＝ 名： 受験者数 A=26名： 単位取得者数 B=25名： 比率 (B/A) =96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて今後も講義を展開していきたい。

予習復習の課題を用意していく。

指定された教材以外のものを使用されて学べ、わかりやすかったとの評価を頂く。継続したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：水理学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：難波

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.61	4.0	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.11	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	予習復習をさせるようにする課題もさらに追加。
担当者の熱意 ⑧	4.83	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.78	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.89	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.78	4.0	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.83	4.0	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する 必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数＝ 名： 受験者数 A=24 名： 単位取得者数 B=23 名： 比率 (B/A) =96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて今後も講義を展開していきたい。

予習復習の課題を用意していく。

指定された教材以外のものを使用されて学べ、わかりやすかったとの評価を頂く。継続したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：自然環境キャリア演習

授業担当者（代表者）名：難波

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.45	4.0	毎回の宿題や予習の課題を準備して自主学習の習慣を身に付けさせたい。
内容の理解度 ⑤	4.45	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.82	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
理解への配慮 ⑪	4.91	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
アクティブな機会 ⑭	4.27	4.0	学生とのやり取り、学生と学生とのやり取りを継続して取り入れて行きたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学問の趣旨なぜこれを学ばないといけないかを、これまでにしっかりと周知しておりその評価であると考えます。
全体評価 ⑯	4.82	4.0	反省を行いブラッシュアップしていきたい。

登録者数＝ 名： 受験者数 A=15名： 単位取得者数 B=15名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

時事に関する問いかけや課題もブラッシュアップして提供したい。

予習復習の課題を用意し習熟に努めたい。

課題を充実させたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月17日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築材用・構造実験

授業担当者（代表者）名：難波

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.75	4.0	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	実験値と理論値、で「解」を求めている。解の違いや差異について興味をもってもらいたい。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	しっかり個々が実験に携われる機会を継続して与えて行きたい。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.25	4.0	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する 必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数＝ 名： 受験者数 A=28名： 単位取得者数 B=28名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業アンケートの周知徹底がうまく伝わっていなかったことが反省点である。
 実験自習用のアンケート用紙への回答ではありませんでした。申し訳ありません。
 実験の内容を自然現象とリンクさせてわかりやすい解説で実験を継続していきたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月3日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：景観デザイン論

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.5	4.0	フィールドワークが中心であり、主に結果のとりまとめとプレゼン資料作成が課外時間の主要な作業になったため、自主学習の時間を確保できるような工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
授業時間 ⑦	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=2：受験者数 A=2 単位取得者数 B=2：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成しているが、自主学習の進め方についてはよりわかりやすい指示を出すような工夫が必要。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月3日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：行政法

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.57	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	4.29	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
授業時間 ⑦	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	目標に達してはいるが、オンライン形式でのアクティブな機会の設定に工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	4.64	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.79	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=42： 受験者数 A=42 単位取得者数 B=36： 比率 (B/A) =85%

総括（自由記述に対する対応含む）：

すべての項目において目標を達成しているものの、学生が能動的に学習に臨めるような機会の設定についてはさらに工夫が必要であると考えます。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月3日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：交通工学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.40	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	少人数の授業であったため、よりきめ細かく学生の理解度をチェックできるような演習課題等工夫する必要がある。
授業時間 ⑦	4.40	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.60	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.40	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.60	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=9：受験者数 A=9 単位取得者数 B=9：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。1名であるが、内容の理解度が不十分と感じている学生がいるため、演習課題を工夫するなど、都度の理解度把握を心掛ける必要がある。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月3日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：製図Ⅱ

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.97	4.0	講義室のPCを使った演習形式であったため明示的に自主学習の指導はしなかったが、配布資料等には工夫の余地があると考ええる。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	少人数の授業であったため、よりきめ細かく学生の理解度をチェックできるような演習課題等工夫する必要がある。
授業時間 ⑦	4.74	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.63	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.46	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.60	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.29	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.31	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.37	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=29：受験者数A=29 単位取得者数B=29：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成しているが、PCを用いた授業における自主学習の機会を設けるための工夫が必要である。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年3月3日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：橋梁工学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
授業時間 ⑦	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	目標に達しているが、維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=7： 受験者数 A=7 単位取得者数 B=7： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。アクティブな機会に込める評価がやや低い点について、自ら調べ、内容をスライドや資料にまとめて発表する機会を設けたが、学生がより主体的に考え、議論ができるような機会の設定等さらなる工夫を試みる。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年2月16日

授業対象学科： 2年

授業科目名： 建築構法

授業担当者（代表者）名： 森 元一

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.42	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	写真の多い教材を採用したが、覚える量が多いのももう少し絞って伝えていきたい
授業時間 ⑦	4.67	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.43	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.76	4.0	ZOOM 授業と言う事もあり、こちらからの一方的な授業になりやすい傾向にあるので、今後工夫をしていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.05	4.0	
全体評価 ⑯	4.67	4.0	

登録者数=33名： 受験者数 A=30名： 単位取得者数 B=31名： 比率 (B/A) =93 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年2月16日

授業対象学科： 2年

授業科目名： 建築材料

授業担当者（代表者）名： 森 元一

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.83	4.0	建築材料を学ぶ意味や方法を伝えるようにしていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	
授業時間 ⑦	4.67	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.08	4.0	ZOOM 授業と言う事もあり、こちらからの一方的な授業になりやすい傾向にあるので、今後工夫をしていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	自ら勉強できるような事を教えてきたい。今後教材（教科書）を変えて対応してみたいと思う。
全体評価 ⑯	4.42	4.0	

登録者数=40名： 受験者数 A=35名： 単位取得者数 B=38名： 比率 (B/A) =95 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月16日

授業対象学科：3年

授業科目名：建築生産特論

授業担当者（代表者）名：森 元一

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.5	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.42	4.0	
授業時間 ⑦	4.75	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	動画などを多く準備したのが良かったのではないと思う。見せたい場所だけ編集していたのが良かったと思う。
理解への配慮 ⑪	4.76	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.92	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.75	4.0	ZOOM 授業と言う事もあり、こちらからの一方的な授業になりやすい傾向にあるので、今後工夫をしていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	
全体評価 ⑯	4.5	4.0	

登録者数=32名：受験者数A=32名：単位取得者数B=32名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

現在の、建築生産の抱える問題（少子高齢化や地域の過疎化）などを提示出来て、学生が興味を持ってくれたことが良かったと思う。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和4年2月16日

授業対象学科： 3年

授業科目名： 建築生産特論

授業担当者（代表者）名： 森 元一

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.64	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	
授業時間 ⑦	4.75	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.93	4.0	
板書・教材 ⑩	4.93	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.80	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.93	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.40	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	
全体評価 ⑯	4.60	4.0	

登録者数=31名： 受験者数 A=30名： 単位取得者数 B=30名： 比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

演習項目で、座学とは少し違うが、おおむね良い評価だったので、こちらを続けていきたいと思う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築コストマネジメント

授業担当者（代表者）名： 辻 潔

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.25	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.96	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.79	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.58	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.13	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	3.38	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	3.92	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.25	4.0	現状を継続

登録者数 = 28 名： 受験者数 A = 28 名： 単位取得者数 B = 28 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「この講義の受講はとてもやりやすかった。毎回出席カードの記入があるため、それが復習となり授業スライドも Moodle 上にアップしてくださるので、見返しもできて効率的に内容理解ができました。（原文のまま）」

上記のようなアンケート記述があった。

今後の授業も更なる改善をして、学生が勉強しやすい環境を作っていきたいと思う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 17 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 環境工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 辻 潔

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.27	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.67	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.87	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.47	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.27	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.53	4.0	現状を継続

登録者数 = 36 名： 受験者数 A = 36 名： 単位取得者数 B = 36 名 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「授業の最後に確認テストをするのは、その日の復習がすぐできてよかったです。（原文のまま）」
上記のようなアンケート記述があった。

今後の授業も更なる改善をして、学生が勉強しやすい環境を作っていきたいと思う。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：鉄骨構造

授業担当者（代表者）名：那花弘行

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.17	4.0	講義を離れた時間にも、学生が鉄骨構造物に興味をもって接するよう関心を引き出すような指導を心がけたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	講義の対象としている分野はかなり高度な内容を含んでいる。今後もう少し易しい部分に比重を移したい。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	余裕を持った計画的な時間の使い方ができたと思う。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	引き続き熱意をもって講義に臨みたい。
板書・教材 ⑩	4.50	4.0	資料自体は見やすいものになっていると思うが、電子機器の利用方法に更なる工夫を加えたい。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	講義中に理解度の確認を行っているが、さらに配慮して講義を進めるようにしたい。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	講義の内容に高度なものを含んでいるが、分かりやすく平易な説明を心がけたい。
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	ZOOM(Team)の機能を利用して、学生の意見を発表できるような機会を設けるようにしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	学生が自主的に学ぶ姿勢を持つよう、さらに指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.17	4.0	概ね、学生の期待に応える講義ができたのではないかと思います。

登録者数=34名：受験者数 A=33名：単位取得者数 B= 33名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

鉄骨構造物は解析理論に沿って挙動する部分が多く、理論的な説明のしやすい構造形式であるが、一方、実際の構造物に触れて理解の深まる部分もある。今回は座学が中心であったが、次回は実際の構造物に触れる機会を確保できるよう考慮してみたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：構造デザイン

授業担当者（代表者）名：那花弘行

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.75	4.0	構造デザインの理論的な解説とともに、実際の建築物における事例を紹介した。今後は、自発的な知識の習得ができるような指導を進めていきたい。
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	講義の対象としている内容が、平易な説明が困難な対象があるが、さらに工夫を重ね分かりやすい説明を心がけたい。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	余裕を持った計画的な時間の使い方ができたと思う。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	引き続き熱意をもって講義に臨みたい。
板書・教材 ⑩	4.63	4.0	資料自体は見やすいものになっていると思うが、電子機器の利用方法に更なる工夫を加えたい。
理解への配慮 ⑪	3.88	4.0	講義中に理解度の確認を行っているが、さらに配慮して講義を進めるようにしたい。
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	講義の内容に高度なものを含んでいるが、分かりやすく平易な説明を心がけたい。
アクティブな機会 ⑭	2.88	4.0	ZOOM(Team)の機能を利用して、学生の意見を発表できるような機会を設けるようにしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	学生が自主的に学ぶ姿勢を持つよう、さらに指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	概ね、学生の期待に応える講義ができたのではないと思う。

登録者数=39名：受験者数 A=35名：単位取得者数 B= 35名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築物の形状に関して、その形の必然性を説明するとともに、実際の事例を写真や構造図を混ぜて紹介した。事例紹介の部分は建築物に興味のある学生であれば、必ずしも構造分野の知見が豊富でなくても理解でき、また関心も沸く分野であると思うが、構造理論の部分は、理解を深めるのは難しい部分があるかもしれない。今後もできるだけ平易な説明を心がけ、学生の理解を深める努力を継続したい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：RC 構造

授業担当者（代表者）名：那花弘行

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.29	4.0	講義を離れた時間にも、学生が RC 構造物に興味をもって接するよう関心を引き出すような指導を心がけたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	講義の対象としている分野はかなり高度な内容を含んでいる。今後もう少し易しい部分に比重を移したい。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	余裕を持った計画的な時間の使い方ができたと思う。
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	引き続き熱意をもって講義に臨みたい。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	資料自体は見やすいものになっていると思うが、電子機器の利用方法に更なる工夫を加えたい。
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	講義中に理解度の確認を行っているが、さらに配慮して講義を進めるようにしたい。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	講義の内容に高度なものを含んでいるが、分かりやすく平易な説明を心がけたい。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	ZOOM(Team)の機能を利用して、学生の意見を発表できるような機会を設けるようにしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.29	4.0	学生が自主的に学ぶ姿勢を持つよう、さらに指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.29	4.0	概ね、学生の期待に応える講義ができたのではないかと思います。

登録者数=33名：受験者数 A=32名：単位取得者数 B= 32名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述では、講義の進行が速いというコメントがあった。講義に盛り込む内容をできるだけ厳選し、進行速度に配慮した講義とするよう心掛けたい。RC構造物は解析理論に沿って挙動する部分が多く、理論的な説明のしやすい構造形式であるが、一方、実際の構造物に触れて理解の深まる部分もある。今回は座学が中心であったが、次回は実際の構造物に触れる機会を確保できるよう考慮してみたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：構造力学 I

授業担当者（代表者）名：那花弘行

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.33	4.0	講義を離れた時間にも、学生が一般社会の建築構造物に興味をもって接するよう関心を引き出すような指導を心がけたい。
内容の理解度 ⑤	3.78	4.0	講義の内容はそれほど高度なものとは思えないが、さらに易しく説明することを心がけたい。
授業時間 ⑦	4.78	4.0	余裕を持った計画的な時間の使い方ができたと思う。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	引き続き熱意をもって講義に臨みたい。
板書・教材 ⑩	4.11	4.0	学生によってはスマートフォンで資料を見ている者もあり、見やすい資料の作成を心がけたい。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	講義中に理解度の確認を行っているが、さらに配慮して講義を進めるようにしたい。
伝える工夫 ⑬	4.11	4.0	講義中の私語などは見受けられないが、居眠りなどはきめ細かく注意していきたい。
アクティブな機会 ⑭	4.56	4.0	演習課題を、学生に板書、発表させる機会を与えているが、今後も継続したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.11	4.0	学生が自主的に学ぶ姿勢を持つよう、さらに指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	概ね、学生の期待に応える講義ができたのではないと思う。今後、理解力の不足している学生への対応にも工夫していきたい。

登録者数=37名：受験者数 A=30名：単位取得者数 B= 30名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

講義中には、ある程度興味を引き出せたのではないかと考えていたが、試験結果は期待していたほどではなかった。r

位階の進んでいる学生と、遅れている学生との差が大きく更なる工夫が必要であると感じている。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築史

授業担当者（代表者）名： 副田和哉

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.50	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学习について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認を しながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.42	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.50	4.0	現状を継続

登録者数 = 35 名： 受験者数 A = 35 名： 単位取得者数 B = 32 名： 比率 (B/A) = 91.4%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本講義は、オンラインと対面のハイブリッド講義であった。

その中で、講義におけるインタラクティブ性を確保する為、Zoom・教室内での発言の機会やチャット機能による Q & A を多く行なった。ただ、そうした中でもごく少数ではあるが、今回、目標値に達しなかった「②自主学习指導」や「⑤内容の理解度」に不満を持つ学生もいるようで、そうした学生への働きかけが今後の課題である。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月16日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築都市デザイン

授業担当者（代表者）名：副田和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.67	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学习について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.50	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.42	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.42	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.58	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.33	4.0	現状を継続

登録者数＝ 38名： 受験者数 A＝ 38名： 単位取得者数 B＝ 36名： 比率(B/A)＝ 94.7%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本講義は、完全オンライン講義であった。

その中で、講義におけるインタラクティブ性を確保する為、Zoom 上での発言の機会やチャット機能による Q & A を多く行なった。ただ、そうした中でもごく少数ではあるが、今回、目標値に達しなかった「②自主学习指導」や「⑭アクティブな機会」に不満を持つ学生もいるようで、そうした学生への働きかけが今後の課題である。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月16日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：構造力学Ⅲ

授業担当者（代表者）名：副田和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.36	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.64	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.68	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.68	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.32	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.72	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.40	4.0	現状を継続

登録者数 = 58名：受験者数 A = 58名：単位取得者数 B = 52名：比率 (B/A) = 89.6%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本講義は、関連する構造力学の講義の中でも最も難易度の高い講義である。

講義の中では、実際の一級建築士の学科試験の問題なども取り上げたが、「⑤内容の理解度」について大きく損なうことなく、講義を進めることができたのは、何よりである。細かな難易度の設定については、今後の課題である。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 福祉環境デザイン特論（計画系特論 E）

授業担当者（代表者）名： 副田和哉 所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.75	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.75	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.75	4.0	現状を継続

登録者数 = 19 名： 受験者数 A = 19 名： 単位取得者数 B = 19 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「映像を見る機会もあり、堅苦しい感じがなくてよかったです。また、美術館を訪れないとできない課題もあったので良い機会となりました。」

上記のような記述があった。

コロナ禍の情勢もあり、学生にとって、学外における学びの機会が失われていたのも心配であった。

本講義が、そうした学びのきっかけになったのなら嬉しい限りである。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア建築都市デザイン演習 I

授業担当者（代表者）名： 副田和哉

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.36	4.0	他の講義（製図演習や CAD 演習）との関連も意識させながら自主学習について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	4.55	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.36	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.55	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.18	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.09	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.27	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.55	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.09	4.0	現状を継続

登録者数 = 34 名： 受験者数 A = 34 名： 単位取得者数 B = 31 名： 比率 (B/A) = 91.2%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「パース画やプレゼンシートの作り方を授業として全体に説明(教え)もなかったのに、いざこちらで作ると指摘されるのが不満であった。個人で練習での練習や授業外で個人的に教えるという意図かは知らないが、今年度初めて建築を学ぶ生徒もいるのだから、授業として教えるべきだと思う。」

上記のような記述があったが、特に建築表現に関するスキルについては、出題の際や毎週のエスキス、各講評の際に繰り返しの指導を行なっている。ただ今年度の（演習としての）課題は、エスキスの際に欠席する学生がいたことも事実であり、そうした学生に対する説明・指導の機会が失われていたのは残念である。また本講義は、この講義だけで完結するものでもなく、他の講義との関連づけを意識させる必要もある。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン

授業科目名：工学デザイン基礎Ⅱ

授業担当者（代表者）名：堀口譲司 所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.57	4.0	課題を出し、翌週に提出させるパターンを 6 回繰り返した。 その際重要なポイントを毎回伝えている。
内容の理解度 ⑤	4.57	4.0	現状を維持する
授業時間 ⑦	4.57	4.0	現状を維持する
担当者の熱意 ⑧	4.36	4.0	現状を維持する
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	現状を維持する
理解への配慮 ⑪	4.21	4.0	現状を維持する
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	現状を維持する
アクティブな機会 ⑭	4.07	4.0	現状を維持する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.21	4.0	現状を維持する
全体評価 ⑯	4.07	4.0	現状を維持する

登録者数=23 名： 受験者数 A=23 名： 単位取得者数 B=20 名： 比率 (B/A) =87%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「建築を様々な方向から見ることができ面白かったです」という意見があった。
実際は、建築設計以前のデザインに関する基礎を、3 次元立体をベースに色々な方向からアプローチした。今後も工夫を重ねて、よりデザイン基礎が身に着く課題を出し、指導していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン

授業科目名：建築デザイン特論

授業担当者（代表者）名：堀口譲司 所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.18	4.0	現状を維持
内容の理解度 ⑤	4.55	4.0	現状を維持
授業時間 ⑦	5.00	4.0	現状を維持
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	現状を維持
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	現状を維持
理解への配慮 ⑪	4.73	4.0	現状を維持
伝える工夫 ⑬	4.73	4.0	現状を維持
アクティブな機会 ⑭	2.27	4.0	全てオンラインの Zoom 授業であったため意見発表や討論機会を設けることができなかった。今後の課題とする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.55	4.0	現状を維持
全体評価 ⑯	4.09	4.0	現状を維持

登録者数 = 34 名： 受験者数 A = 34 名： 単位取得者数 B = 34 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

毎回講演会ができるレベルに近づけるべく資料を作り込んでいるつもりである。

授業後出席代わりにアンケートを記入させており、各人の意見がわかるようにしている。

「他の人との討論の機会」は今後の課題としたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習Ⅲ

授業担当者（代表者）名：堀口譲司 所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.0	4.0	現状を維持
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	現状を維持
授業時間 ⑦	4.6	4.0	現状を維持
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	現状を維持
板書・教材 ⑩	4.4	4.0	現状を維持
理解への配慮 ⑪	4.4	4.0	現状を維持
伝える工夫 ⑬	4.4	4.0	現状を維持
アクティブな機会 ⑭	4.6	4.0	現状を維持
自ら学ぶ態度 ⑮	4.9	4.0	現状を維持
全体評価 ⑯	4.3	4.0	現状を維持

登録者数=36名：受験者数 A=36名：単位取得者数 B=36名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね高い数値で推移しているので、今後よりブラッシュアップさせていきたい。

今回は第一課題を、こちらで選定した 3 人による共同設計とした。グループでバランスを取ったため平均的にレベルが高かった。この学年は入学時からコロナ禍にあり、なかなか同級生同士のコミュニケーションが取りづらかったので良い機会になったと思う。課題後アンケートを実施したが、ほとんどの学生が好意的に評価していた。来期でも実施したい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月22日

授業対象学科：建築デザイン

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習V

授業担当者（代表者）名：堀口譲司 所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.71	4.0	現状を維持
内容の理解度 ⑤	4.71	4.0	現状を維持
授業時間 ⑦	4.71	4.0	現状を維持
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	現状を維持
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	現状を維持
理解への配慮 ⑪	4.86	4.0	現状を維持
伝える工夫 ⑬	4.86	4.0	現状を維持
アクティブな機会 ⑭	4.86	4.0	現状を維持
自ら学ぶ態度 ⑮	4.86	4.0	現状を維持
全体評価 ⑯	4.57	4.0	現状を維持

登録者数=24名：受験者数A=23名：単位取得者数B=23名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全ての数値が高い状況であるので、今後よりブラッシュアップさせていきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：情報リテラシー

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.09	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.45	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.73	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.55	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.09	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.27	4.0	課題を行う際に他の学生と討論が可能になるように工夫する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 31 名： 受験者数 A = 31 名： 単位取得者数 B = 28 名： 比率 (B/A) = 90%

総括（自由記述に対する対応含む）：

他の学生と意見交換ができるように授業内容を変更する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア計画 I

授業担当者（代表者）名： 李志炯 所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.95	4.0	課題を出し、授業外の時間でも自ら学習できるようにする。
内容の理解度 ⑤	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.53	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.89	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.68	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.95	4.0	課題発表などを通して自分の意見を発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.37	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.68	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 26 名： 受験者数 A = 26 名： 単位取得者数 B = 19 名： 比率 (B/A) = 74%

総括（自由記述に対する対応含む）：

もっと楽しく勉強できる環境をつくるために、授業の内容および指導の仕方について工夫する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア計画Ⅱ

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.56	4.0	予習復習が可能な課題を出す。
内容の理解度 ⑤	4.89	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.78	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.89	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.78	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	4.78	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.89	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.78	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 26 名： 受験者数 A = 26 名： 単位取得者数 B = 24 名： 比率 (B/A) = 92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

予習が可能な課題を用意する。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア施工

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.43	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.71	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.57	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.64	4.0	課題の発表の時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.57	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.21	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 21 名： 受験者数 A = 21 名： 単位取得者数 B = 20 名： 比率 (B/A) = 95%

総括（自由記述に対する対応含む）：

ものづくりだけでなく、作ったものを用いた発表会を行い、意見交換ができる授業にする。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリアデザイン特論

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.08	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.42	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.42	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.42	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	インテリアデザインに関する自由討論を行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 13 名： 受験者数 A = 13 名： 単位取得者数 B = 13 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

討論可能な課題を出す。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築 CAD

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.59	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.41	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.65	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.82	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.76	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.76	4.0	設計課題を出し、完成した設計課題を用いて発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.24	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.65	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 33 名： 受験者数 A = 33 名： 単位取得者数 B = 25 名： 比率 (B/A) = 76%

総括（自由記述に対する対応含む）：

設計課題を出し、自分が考えた空間を表現する時間を設ける。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築工学基礎概論

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.21	4.0	文献調査の課題を出す。
内容の理解度 ⑤	4.07	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.79	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.79	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	3.50	4.0	よりわかりやすい資料を用意する。
伝える工夫 ⑬	4.86	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.21	4.0	課題を出し、発表の時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.14	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.43	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 32 名： 受験者数 A = 32 名： 単位取得者数 B = 32 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

自主学習ができるように課題を出し、課題の発表時間を設ける。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年 2月21日

授業対象学科：全学科（航空操縦学専攻を除く）

授業科目名：freshman English II

授業担当者（代表者）名：重久睦・徳山ティード・(ケラウェイ宏子) 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.3	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.3	4.0	学生が理解しやすいように補助資料の提供や個別指導に努めていきます。
授業時間 ⑦	4.8	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.8	4.0	
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	教材には、できるだけ学生が興味のある話題などを取り組んでいきます。
理解への配慮 ⑪	4.7	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.8	4.0	今後もパワーポイントや資料等を工夫していきます。
アクティブな機会 ⑭	4.4	4.0	今後も学生が主体的に動ける場の設定をしていきます。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.7	4.0	
全体評価 ⑯	4.5	4.0	

登録者数=162名：受験者数A=151名：単位取得者数B=148名：比率(B/A)=98.0%

総括：

個々の英語力の段階が違うため、一斉指導の難しさを感じておりますが、補助資料や課題等の工夫で、個々の力が伸びるよう努めて参りたいと思います。また、興味をかきたてられる内容を多く取り入れ、英語学習に対して一層関心を高められるようにして参りたいと思います。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義・演習）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. この文書を2月28日（月）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。

記入年月日：令和4年 2月17日

授業対象学科：全学科（航空操縦学専攻を除く）

授業科目名：総合英語 II

授業担当者（代表者）名：ケラウェイ宏子 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
座学との関係 ②	4.0	4.0	
内容の理解 ③	4.67	4.0	学生が理解しやすいように補助資料の提供や個別指導に努めていきます。
知識の増加 ⑤	5.0	4.0	自主学習が円滑にできるよう、計画的な学習指示を行っていきます。
板書・教材 ⑥	4.83	4.0	教材には、卒業後にも役立つ題材などを取り組んでいきます。
伝える工夫 ⑦	5.0	4.0	今後もパワーポイントや資料を工夫していきます。
全体評価 ⑧	4.83	4.0	さらに学生主体の授業になるよう工夫し、レッスンを組み立てていきます。
登録者数=14名： 受験者数 A=14名： 単位取得者数 B=13名： 比率 (B/A) = 92.8%			
<p>総括</p> <p>今回、英語でのプレゼンテーションを中心に取り組み、段階を踏むごとに学生それぞれの目標を見事に到達していったように思います。今後は、プレゼンテーションの内容にもさらに深く取り組んで参ります。</p>			

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28 までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日 : 令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科 : 工学部教職課程

授業科目名 : 「教育原理」

授業担当者（代表者）名 : 永田正明 所属 : 共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	1. 7	4.0	
内容の理解度 ⑤	4. 0	4.0	シラバスの計画進度からすると 70%程であったが、その分内容としては広く浅くした。
授業時間 ⑦	4. 3	4.0	授業についていけない学生が多く、つまり国語力がないと理解させることが難しい科目ではある。
担当者の熱意 ⑧	4. 0	4.0	多分に伝わったと思う。
板書・教材 ⑩	4. 3	4.0	適時に参考文献のコピーを配布しながら、実物投影機を使用した授業を展開したので、学生は確認しながら講義に集中できた。
理解への配慮 ⑪	4. 0	4.0	教員採用試験問題に「教育法規」もあるので、採用試験問題への対策もやったが、時間的には難しいものを感じた。
伝える工夫 ⑬	3. 3	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3. 0	4.0	コロナ問題があるため、学生と共に学校教育問題をアクティブになるよう検討することはできなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	2. 7	4.0	「教育原理」という科目を自ら学ぶようにすることは現職の教師に対しても困難な問題である。学生が今必要性を感じないから。
全体評価 ⑯	4. 0	4.0	講義する側、講義を受ける側ともに有意義な時間を過ごせたという印象であった。

登録者数 = 17 名 : 受験者数 A = 17 名 : 単位取得者数 B = 17 名 : 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）:

「教育原理」については、これといった画一的な授業形態や教科書がなく、講義担当者の考え方が大きなウェイトを占めるため、これからも学生と一緒に授業形態を検討するように心がけたい。

黒板を使った遠隔授業のできる講義室が 1 号館にないので、次年度もコロナが続くようであれば黒板やスクリーンまで入る遠隔カメラの設置が望まれる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28 までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：工学部教職課程

授業科目名：「生徒指導論」

授業担当者（代表者）名：永田正明 所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.5	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	シラバスの計画進度からすると 50%程であったが、その分内容の質にこだわったため理解度は良かった印象がある。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業に集中できない学生はいないので、授業を行う側としても満足できている。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	多分に伝わったと思う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	適時に参考文献のコピーを配布しながら、実物投影機を使用した授業を展開したので、学生は確認しながら講義に集中できた。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	教員採用試験問題に「生徒指導」もあるので、採用試験問題への対策としてはよくできた方だと考える。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	学生と共に学校教育問題をアクティブになるよう取り組んだし、学生もそれに応えていた。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	毎回必ず生徒指導上の問題点を提示して考えさせるように十分配慮した。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	講義する側、講義を受ける側ともに有意義な時間を過ごせたという印象であった。

登録者数=4名：受験者数 A=4名：単位取得者数 B=4名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「生徒指導論」についての授業形態は、今回から全国の教員採用試験問題を題材として、学生と一緒に問題を検討して解答するように心がけた。

遠隔授業のできる講義室が 1 号館に不足しており、次年度もコロナが続くようであれば黒板やスクリーンまで入る遠隔カメラの設置が望まれる。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 21 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：情報リテラシー

授業担当者（代表者）名：森園由香

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	毎回練習問題を課し、授業後も自主学習できるよう工夫した。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	できるだけ平素な内容かつ身近に感じられるテーマを取り入れた課題を与え、内容の理解度を向上させるよう工夫した。
授業時間 ⑦	4.58	4.0	パソコン操作が速くない学生も十分に作業ができるよう時間配分を考慮した。
担当者の熱意 ⑧	4.83	4.0	この講義で修得したことをいつ使うのか、どんな場面で活かせるか毎回説明し、意欲を持たせるよう工夫した。
板書・教材 ⑩	4.92	4.0	教科書を主教材とし、強調すべきポイントはスライドで示し、学生が教科書に書き足せるよう工夫した。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	作業が進むごとに全員に対し不明な点の有無やもう一度説明してほしい者はいないか確認しながら講義を進めた。
伝える工夫 ⑬	4.92	4.0	プロジェクターに映すと小さくなって見えにくい箇所は画面拡大を駆使して、後ろの席でも見えるよう工夫した。
アクティブな機会 ⑭	4.42	4.0	課題に取り組む際は、理解度の高い学生が周囲に教えることで相互理解を深める機会を設けた。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.58	4.0	検索エンジンを使い不明な点を調べる方法についても指導し、自ら情報を集め PC スキルを向上できるよう工夫した。
全体評価 ⑯	4.83	4.0	ほとんどの学生が一定レベル以上の理解度を示しており、おおむね良好な講義だったと言える。

登録者数=27名：受験者数 A=25名：単位取得者数 B=24名：比率 (B/A) =96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 24 日

授業対象学科： 全

授業科目名： 技術科教育法Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 倉元 賢一 所属： 共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	加工実習を行うための設計など、自らの生活をよりよくするための取り組みを考えさせることで、意欲が高まった。
内容の理解度 ⑤	4.6	4.0	教師として学校で授業を展開するために必要な基礎的な知識に関して、自分自身の将来設計とも関わるため、意欲付けに工夫が必要である。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	演習などを交えると時間が足りなくなることがあったので、時間配分を考えたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	現場経験者としての想いを今後も伝えていきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	学校現場で使われる機材を活用しながらさらなる工夫をしていきたい。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	個別最適化された授業を展開するために、ルーブリックなどを活用していきたい。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	ICT 機器を有効に活用していくために、BYOD なども視野に入れていきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	教育実習につなげられるような演習の機会を多く設けて、より実際に役立つ授業を展開していきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	教員志望者と企業志望者、それぞれのレディネスをしっかりと把握した上で、個に応じた指導をしていきたい。
全体評価 ⑯	4.6	4.0	内容知と方法論だけでなく、実際に生徒を目の前にしたときにどのようにすべきかななどを議論する時間を増やしていきたい。

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教育実習につながっていく授業ということもあり、理論的なことから、実践的なことへの移行を図っていく展開であったが、受講生が履修してきた時代と学習指導要領が変わっており、具体的にイメージすることが難しい場面があった。ICT 機器を有効に活用して、学校現場の生の声や様子を活かした授業展開ができるよう、今後工夫していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 24 日

授業対象学科：全

授業科目名：道德教育

授業担当者（代表者）名：倉元 賢一 所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	予習の課題を明確にしたことで、積極的に授業に参加していた。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	今日的課題を積極的にとり入れることで、意欲的に授業に取り組んでいた。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	演習などを交えると時間が足りなくなることがあったので、時間配分を考えたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	現場経験者としての想いを今後も伝えていきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	学校現場で使われる機材を活用しながらさらなる工夫をしていきたい。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	一人一人の個性を活かせるように、ルーブリックなどを活用していきたい。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	ICT 機器を有効に活用していくために、BYOD なども視野に入れていきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	演習の機会を多く設けて、より実践に役立つような授業を展開していきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	レディネスをしっかりと把握した上で、個に応じた指導をしていきたい。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	テレビ局や学校と連携しながら課題に取り組んだため、意欲的に授業に参加する姿が見られた。

登録者数 = 3 名： 受験者数 A = 3 名： 単位取得者数 B = 3 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

中学校教員免許の必修科目であり、近年教科化されたということもあり、受講者の関心も高かった。学校教育の根幹をなすものであり、また新型コロナウイルス感染症に対する教材の開発の必要性が高まる中、テレビ局に協力をいただき教材を作成し、中学校現場で実践するという機会を得られたため、受講者も意欲的に取り組むことができた。今後も実践的な授業を展開できるよう工夫していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 24 日

授業対象学科：全

授業科目名：技術科教育法Ⅳ

授業担当者（代表者）名：倉元 賢一 所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.5	4.0	次時の予告が足りなかったのが良くなかった。予習の課題を明確にし、授業に活かせるようにしたい。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	教育現場での今日的な課題を、自分が授業者になることを想定してできるように、幅広く取り扱えるようにしたい。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	演習などを交えると時間が足りなくなることがあったので、時間配分を考えたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	現場経験者としての想いを今後も伝えていきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	学校現場で使われる機材を活用しながらさらなる工夫をしていきたい。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	一人一人の個性を活かせるように、ルーブリックなどを活用していきたい。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	ICT 機器を有効に活用していくために、BYOD なども視野に入れていきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	演習の機会を多く設けて、より実践に役立つような授業を展開していきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	レディネスをしっかりと把握した上で、個に応じた指導をしていきたい。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	人数も少ない講義のため、個々のニーズに添えるように授業を展開する必要があった。

登録者数 = 3 名： 受験者数 A = 3 名： 単位取得者数 B = 3 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

中学校技術の免許科目としては、最後の科目となるため、教職に就くことを前提に授業を展開した。個々のニーズは様々であるため、中庸をとるような内容を心掛けたが、より実践的な内容を望む声も聞かれたため、途中からはそのような展開を心掛けた。

今後はそれぞれのレディネスをしっかりと把握した上で授業を展開していきたい。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 3 年 2 月 16 日

授業対象学科： 工学部教職課程

授業科目名： 工業科教育法Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 大山良一

所属： 共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	4.8	4.0	事前課題への取り組みが活きる授業を展開する。
⑤ 内容の理解度	3.8	4.0	解りやすいプレゼン内容や資料の作成・配布に努める。
⑦ 授業時間	4.8	4.0	授業計画どおり実施する。
⑧ 担当者の熱意	4.8	4.0	誠意の伝わる授業となるよう努力する。
⑩ 板書・教材	4.8	4.0	パワー・ポイントと資料を活用した授業内容とする。
⑪ 理解への配慮	5.0	4.0	学生個々の解度を確認しながら授業を進める。
⑬ 伝える工夫	4.8	4.0	教材(ICT 活用)の見直しを図る。
⑭ アクティブな機会	4.3	4.0	グループ・ワーキングの時間を増やす。
⑮ 自ら学ぶ態度	5.0	4.0	教師を目指す者として、自己学習の必要性について指導する。
⑯ 全体評価	4.0	4.0	達成感及び満足度の高い授業となるように努める。

登録者数 = 38 名： 受験者数 A = 36 名： 単位取得者数 B = 36 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

高校(工業)の教員免許取得のための講義である。教師としてどうあるべきかを考えると、学びの姿勢・自己学習による知識の向上、そして思考力・表現力(教える力)を養う必要がある。それらを修得させる為に教材・資料・講義内容等を改善し、充実する必要があると考える。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 3 年 2 月 16 日

授業対象学科：工学部教職課程

授業科目名：職業指導

授業担当者（代表者）名：大山良一

所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.5	4.0	事前課題への取り組みが活きる授業を展開する。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	解りやすいプレゼン内容や資料の作成・配布に努める。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業計画どおり実施する。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	誠意の伝わる授業となるよう努力する。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	パワー・ポイントと資料を活用した授業内容とする。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	学生個々の解度を確認しながら授業を進める。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	教材(ICT 活用)の見直しを図る。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	グループ・ワーキングの時間を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	教師を目指す者として、自己学習の必要性について指導する。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	達成感及び満足度の高い授業となるように努める。

登録者数 = 58 名：受験者数 A = 56 名：単位取得者数 B = 54 名：比率 (B/A) = 96.4%

総括（自由記述に対する対応含む）：

高校(工業)の教員免許取得のための講義である。教師としてどうあるべきかを考えると、学びの姿勢・自己学習による知識の向上、そして思考力・表現力(教える力)を養う必要がある。それらを修得させる為に教材・資料・講義内容等を改善し、充実する必要があると考える。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 16 日

授業対象学科：TE 以外学科

授業科目名：電気工学基礎概論

授業担当者（代表者）名：大山良一

所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.8	4.0	予習・復習の取り組みが活きる授業を展開する。
内容の理解度 ⑤	3.8	4.0	視覚的に解りやすいプレゼン資料の作成に努める。
授業時間 ⑦	4.2	4.0	今後も計画通りの授業展開を行う。
担当者の熱意 ⑧	3.9	4.0	誠意の伝わる授業となるよう努力する。
板書・教材 ⑩	4.0	4.0	パワー・ポイントと資料を活用した授業内容とする。
理解への配慮 ⑪	3.4	4.0	学生個々の解度を確認しながら授業を進める。
伝える工夫 ⑬	3.7	4.0	教材(ICT 活用)を活かした講義内容に努める。
アクティブな機会 ⑭	2.4	4.0	学び合いの時間を設け、理解度向上に勤める。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.7	4.0	自己学習の必要性について指導する。
全体評価 ⑯	3.7	4.0	達成感及び満足度の高い授業となるように努める。

登録者数 = 41 名：受験者数 A = 37 名：単位取得者数 B = 35 名：比率 (B/A) = 94.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

電気工学の基礎内容の講義である。予習・復習による理解力向上を図るための課題や「学び合い」による学生相互理解等の環境整備が必要と考える。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日：令和 4 年 2 月 18 日

授業対象学科：1 学年（全学科）

授業科目名：基礎微分積分学 C クラス

授業担当者（代表者）名：竹下俊一 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.18	4.0	毎回、指導・指示を受けていたが、50.0%であったが、クラス全員に終始徹底できるように工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	3.95	4.0	完璧に理解しているが 27.3%、ある程度理解しているが 40.9% であるので、工夫が必要と思う。
授業時間 ⑦	4.59	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.59	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.59	4.0	教材は十分であったが 0%だったので、もっと内容を伝える工夫が必要と思う。
理解への配慮 ⑪	4.64	4.0	理解度に十分に配慮が、68.2%であるが、まだまだ全員に理解をさせる工夫が必要。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	よく工夫されているが、63.6%であったが、理解度の高い工夫が必要と感じる。
アクティブな機会 ⑭	3.64	4.0	毎回他の人と討論するが、27.3%だったので、もっとクラス全体で取り組む講義工夫が必要である
自ら学ぶ態度 ⑮	4.18	4.0	積極的に学習する態度が 45.5%、自ら考えた機会が多いが、27.3%であったので、もっと工夫が必要である。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	「大変満足」が 40.9%「満足」が 54.5%だが、今後もっと工夫を進める必要がある。

登録者数=49名： 受験者数 A=44名： 単位取得者数 B=44名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、試験（70%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者が 100%であったが、欠席オーバーの学生もおり、また欠席の多い学生も若干いるので、講義を通じて生活面の指導も行っていきたい。

復習や小テストを増やしてもっと理解を深めさせたい。

その他：自由記述について、特に要望等はありませんでした。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月18日

授業対象学科：3学年（全学科）

授業科目名：総合演習基礎

授業担当者（代表者）名：竹下俊一 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	毎回、指導・指示を受けていたが、100%であったが、クラス全員に終始徹底できるように工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	完璧に理解しているが100%、であったが工夫が必要と思う。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	教材は十分であったが100%だったが、もっと内容を伝える工夫が必要と思う。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	理解度に十分に配慮が、100%であるが、まだまだ全員に理解をさせる工夫が必要。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	よく工夫されているが、100%であったが、理解度の高い工夫が必要と感じる。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	毎回他の人と討論するが、100%だったので、もっとクラス全体で取り組む講義工夫が必要である
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	積極的に学習する態度が100%だったが、もっと工夫が必要である。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	「大変満足」が100%だったが、今後もっと工夫を進める必要がある。

登録者数=15名：受験者数A=15名：単位取得者数B=15名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、試験（70%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者が100%であったが、欠席オーバーの学生もおり、また欠席の多い学生も若干いるので、講義を通じて生活面の指導も行っていきたい。

復習や小テストを増やしてもっと理解を深めさせたい。

その他：自由記述について、特に要望等はありませんでした。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：5学科共通科目

授業科目名：ビジネス英語II

授業担当者（代表者）名：徳山 ティーダ

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	毎週小テストを行うことで、講義時間前に予習する習慣ができた。次の講義の予習と復習の範囲も講義の最後に指示するようにした。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	留学生を含め、前年度より基礎知識が低い学生たちが履修していた。初回のオリエンテーションで講義の難易度と基礎知識が必要であることをこれまで以上に丁寧に説明していきたい。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	適切に使っていたと評価されたが、教材の難易度が高い為、予習を欠かさないように学生の意識を高めていけるように努力していきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	「かなり熱意を感じる」と評価されたので今後もしっかり努力していきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	わかりやすいと評価された。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	講義回数が増えるにつれて履修者が減少していき、少人数クラスになったため個別の指導もできたが、本来履修に適さない学生も在籍したので今後オリエンテーションでしっかり難易度を説明していきたい。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	教材は十分であったが、オーバーヘッドがあまりよく見えない時もあったので今後改善していきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	ソーシャルディスタンスを確保しながら、授業中に発表したり、質問したりできるように、今後も努めていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	非常に難しい講義内容、テキスト、補足教材のため、多数の学生は自主的に予習することにより予習・復習をする習慣が身についたと思う。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	満足していると評価されたので今後も続くように努めていきたい。

登録者数=16名：受験者数A=13名：単位取得者数B=7名：比率(B/A)=54%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：取組（出席・発表を含）、課題、単語テスト、復習テスト、試験すべてにおいて多数の学生は取り組むことが出来た。

学習目標の達成：専門的な用語も多く、なじみのない語彙が多いのでとって非常に難しい科目となった

と思う。小テスト、1 週おきの単元テストを行うことで覚えた表現や語彙を忘れないようにした。全体的に学生の満足を得られたので今後も努力していきたい。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月28日

授業対象学科：5学科共通科目

授業科目名：基礎英会話

授業担当者（代表者）名：徳山 ティーダ

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	毎週小テストを行うことで、講義時間前に予習する習慣ができた。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	1コマに一つの単元を学習したので欠席が多いため、定期試験において必要な理解度がなかった学生も在籍した。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業時間を適切に使用していると評価された。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	熱意を感じると評価されたので今後も努力していきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	わかりやすい評価された。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	少人数クラスのため全学生のフォローがしっかりできた。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	良く工夫されていると評価されたので今後も学力・理解力別にフォローを続けていけるようにしたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	ペアワーク、スピーチやグループディスカッションなどを通して自主性と積極的に発言する習慣を身につけた。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	⑭同様、積極性が磨かれて、学生自らテーマを決めて調べたり、スピーチをしたりすることができた。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	「大変満足」と評価されたので今後も努力を続けたい。

登録者数=11名：受験者数A=9名：単位取得者数B=8名：比率(B/A)=89%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：

授業取組（出席、授業中の発表含む）、課題提出、小テスト、試験全てにおいて取り組むことが出来た。

学習目標の達成：

知識が増え、英会話を愉しく取り組めたと評価されたので今後も英会話を愉しんでもらえる授業になるように努力していきたい。

その他：

単位取得できなかった学生は、アンケートをした結果、朝起きることが苦手なため授業の欠席が多くなり予習復習も怠っていたという回答があった。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科： 1 年生（航空工学科を除く全学科）

授業科目名： 教師論

授業担当者（代表者）名： 萩原 和孝

所属： 共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.0	4.0	小テスト実施前には復習を呼びかけ、自主学习の推進を心がけた。今後は予習などについて工夫を図る必要があると考える。
内容の理解度 ⑤	4.29	4.0	「ある程度理解している」71.4%、「完璧に理解している」28.6%と、学生は概ね理解しているようだが、さらなる工夫を心がける。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	「適切に使用」28.6%、「十分に活用している」71.4%であり、授業時間を適切に使えていると考える。
担当者の熱意 ⑧	4.57	4.0	概ね良い評価であり、今後も熱意が伝わる講義を工夫・継続していきたい。
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	スライドとレジュメを事前に moodle にアップロードし、他にも様々な資料を提示することに心がけたことが、良い評価になったと思われる。
理解への配慮 ⑪	4.57	4.0	今後も学生の表情や小テスト等によって、学生の理解度を把握して講義内容・方法にフィードバックさせていく。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	言葉による説明だけでなく、図表などをより積極的に活用して、イメージが伝わるよう努める。
アクティブな機会 ⑭	3.14	4.0	コロナ禍で近距離でのグループ討論などを控えていたが、今後はオンライン上での発表や質疑応答の方法などに工夫が必要と感じる。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.86	4.0	学生自身で考えさせることが不足しているため、学生の主体性を高めるための発問やワークシート等を工夫する必要がある。
全体評価 ⑯	4.43	4.0	「満足」57.1%、「大変満足」42.9%と、学生は概ね満足しているようであるが、「大変満足」が増えるよう今後も努めたい。

登録者数=19名： 受験者数 A=18名： 単位取得者数 B=18名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生は概ね学習目標を到達できたと考えるが、今後は（新型コロナウイルスの感染状況次第だが）グループでの討論等などのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるよう努める必要がある。

また、講義内容とは直接関係ないが、学生から提出された最終レポートは段落冒頭の字下げがされていないものが多かった。インターネット（Moodle）での PDF データによる提出だったこともあり、メール感覚で作成した学生が多かったものと推測されるが、レポートのような文書には字下げは必須と考える。また、敬体（です・ます調）と常体（だ・である調）の不統一も見られた。来期はそのようなレポート作成の基本も教える必要があると考える。さらに、アンケート回答数が 7 名と少なかったため、今後は講義中にアンケート回答をする時間を設けて、回答率を高めるよう努める。

授業改善計画書（令和 3 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 2 月 28（月）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。

記入年月日： 令和 4 年 2 月 26 日

授業対象学科： 2 年生（航空工学科を除く全学科）

授業科目名： 教育課程論

授業担当者（代表者）名： 萩原 和孝

所属： 共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.38	4.0	小テスト実施前には復習を呼びかけ、自主学习の推進を心がけた。今後は予習などについて工夫を図る必要があると考える。
内容の理解度 ⑤	4.63	4.0	「完璧に理解している」が 62.5%と概ね良好であるが、総合評価で 60 点台の学生もいるため、さらなる改善が必要である。
授業時間 ⑦	4.88	4.0	「十分に活用している」が 87.5%であり、適切に実施できたと考える。
担当者の熱意 ⑧	4.63	4.0	「かなり熱意を感じる」が 75.0%で概ね良い評価であるが、今後も講義全体の改善・質の向上を図り、高評価を維持したい。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	講義のほとんどでスライドとレジュメを作成し、事前に moodle にアップロードした。今後もスライド・レジュメの内容を改善していく。
理解への配慮 ⑪	4.63	4.0	今後も学生の表情や小テスト等によって、学生の理解度を把握して講義内容・方法にフィードバックさせていく。
伝える工夫 ⑬	4.88	4.0	レジュメや図表、動画等を活用したこともあり、「良く工夫されている」が 87.5%と概ね評価を得られている。
アクティブな機会 ⑭	4.13	4.0	グループで「総合的な学習の時間」等の年間指導計画を作成・発表させたが、オンライン上での発表や質疑応答の方法などに工夫が必要と感じる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.13	4.0	学生自身で考えさせることがやや不足しているため、発問やワークシート等を工夫し、学生自身の主体性を高めるよう努めたい。
全体評価 ⑯	4.63	4.0	「満足」37.5%、「大変満足」62.5%と、学生は概ね満足しているようである。今後もこの評価が維持できるよう改善を続けたい。

登録者数 = 20 名： 受験者数 A = 20 名： 単位取得者数 B = 20 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

評価は小テスト（10%）、グループでの「総合的な学習の時間」等の年間指導計画作成（40%）、期末テスト（50%）で行った。期末テスト受験者の全員が単位を取得したが、若干、学習意欲が低く、総合評価で 60 点台の学生が数名おり、今後、そのような学生の学習意欲を高めるような工夫が必要と感じている。

講義の最後にアンケート回答を呼びかけたが、回答数が 8 名と少なかったため、今後は講義中にアンケート回答をする時間を設けて、回答率を高めるよう努める。

授業改善計画書（令和3年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は2月28（月）までに各学科FD委員宛にお送りください。

記入年月日：令和4年2月26日

授業対象学科：2年生（航空工学科を除く全学科）

授業科目名：教育経営論

授業担当者（代表者）名：萩原 和孝

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.5	4.0	小テスト実施前には復習を呼びかけ、自主学习の推進を心がけた。今後は予習なども含めた自主学习の促進を図りたい。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	学生はある程度、講義内容を理解しているようだが、さらに理解深まるよう、講義内容・方法を改善する必要がある。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	「十分に活用している」が75%であり、授業時間が極端に短くなるということもなく、適切に実施できたと考えている。
担当者の熱意 ⑧	3.75	4.0	ある程度の熱意は伝わったと思うものの、講義全体をさらに改善していくことで評価を高めていくよう努めたい。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	講義のほとんどでスライドとレジュメを作成し、事前にmoodleにアップロードした。今後もスライド・レジュメの内容を改善していく。
理解への配慮 ⑪	3.75	4.0	オンライン講義では学生がレジュメの空欄部分に記入したのを見計らって、次の説明に進むよう努めたが、さらなる工夫が必要と感じる。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	言葉による説明だけでなく、図表などをより積極的に活用して、イメージが伝わるよう努める。
アクティブな機会 ⑭	2.5	4.0	講義後半ではグループでの作業・発表を取り入れたが、十分とは言えなかった。オンライン講義時の発表等についても工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.25	4.0	学生自身で考えさせることがやや不足しているため、発問やワークシート等を工夫し、学生自身の主体性を高めるよう努めたい。
全体評価 ⑯	3.5	4.0	「満足」50%、「大変満足」25%であるが、「大変満足」の割合を高められるよう、講義全体の改善・質の向上を図る。

登録者数=21名：受験者数A=20名：単位取得者数B=19名：比率(B/A)=95%

総括（自由記述に対する対応含む）：「教育経営論」を担当するのは初めてで、また、新型コロナウイルスの関係で、講義のオンライン方式／対面方式の切り替え対応も必要だったこともあり、試行錯誤しながらの実施であった。今後もオンライン講義が続くことを想定して、オンライン講義中の学生とのやり取りについて工夫するなど、学生の主体的な学習参加につながるような指導上の工夫が必要と感じている。また、提出された最終レポートには基本的な論文・レポートの書き方が身につけていないものが散見されたので（ウェブ上の文章をほぼそのまま剽窃したものもあった）、来年度はレポートの書き方を教える機会を設けたい。

講義の終わりに授業アンケート回答について呼びかけたが、アンケート回答が4名と非常に少なかった。次回は講義中にアンケート回答の時間を設けて、アンケート回収率を高めるよう努める。